2013年度
プラン・ジャパン 年次報告書

ANNUAL REPORT 2013

2012/7～2013/6

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン

2014年1月発行　発行：公益財団法人プラン・ジャパン

2013年度 プランが取り組んだこと。

世界中のプランの活動の一部を、数字でお届けします

9万229の村で活動

1億6,530万人の地域住民と協働しました

7,810万人の子どもたちとともに活動

57万7,423人に地域の担い手としてトレーニングをしました

7万4,332の政府や自治体、支援団体、住民組織と連携

ハイライト

2012年10月11日 第1回 国連「国際ガールズ・デー」が世界中で祝われました

プランが Because I am a Girl キャンペーンの一環として国連に働きかけて制定された、国際ガールズ・デー。2012年10月11日、記念すべき第1回が世界各国で女の子やプランによって祝われ、女の子の直面する問題と同時に女の子たちのもつ力が発信されました。

女の子たちが「早すぎる結婚をなくして。結婚は18歳以上になってから」と訴えました（モザンビーク）

シンポジウムで社会に発信

N.Y や東京など世界の主要都市で、女の子の問題を社会、政府、国連らに伝えるためのフォーラムなどが開催され、多くの市民や支援関係者が耳を傾けました。

2011年のノーベル平和賞受賞者であるリーマ・ボウイーさん（中央）やプランの活動国から集まった女の子の代表が、フォーラムで知見を交換しあいました

©UNIC TOKYO/Hiroaki Yamaguchi

プラン・ジャパンが東京・表参道の国連大学ビルにて、国連広報センター、ガール・スカウト日本連盟と共催でシンポジウムを開催

代表的な建造物がピンクに！

国際ガールズ・デーの存在を広く社会に知ってもらうために、この日、各国の代表的な建造物や観光名所などが、Because I am a Girl キャンペーンのテーマカラーであるピンクに染まりました。

人気のスポット、観覧車のロンドン・アイ
United Kingdom イギリス

ナイアガラの滝
Canada カナダ

南東部のアンドラプラデシュ州の旧王宮
India インド

ピラミッドとスフィンクス
Egypt エジプト

アンデルセンの童話でおなじみの「人魚姫の像」
Danmark デンマーク

女の子たちが声をあげました

この日の主役は、女の子たち。イベントやデモ行進をしたり、国会に出向いたりして、自分たちの抱える問題、そして夢や希望を大人たちに伝えました。

男の子も参加してのコンサートや、女の子によるサッカーの試合などで盛り上がりました
Nicaragua ニカラグア

行進しながら、女子教育の大切さを訴えました。イベントには副大統領も参加
Republic of Nepal ネパール

国会に女の子たちが登場！女の子が直面する問題を議員に直接伝えました
Ecuador エクアドル

ごあいさつ Salutation

公益財団法人
プラン・ジャパン 理事長
川上隆朗
Takao Kawakami

2013年度のプラン・ジャパンは、年度の初めからBecause I am a Girlキャンペーンを本格展開しました。そして迎えた2012年10月11日、第1回の国連「国際ガールズ・デー」。奇しくも直前にタリバン武装勢力に襲撃されたパキスタンの少女マララ・ユスフザイさんの存在が世界的な注目を集めるなか、私たちにとってこの日は、子どもたち、若者たちと手を携え、世界中の女性・女の子を取り巻く厳しい環境の改善を訴える意義と責任を再認識した日ともなりました。そして、より多くの認知と参加を得て、より高い支援効果を発揮する強い組織を目指し、キャンペーンを強化して精力的な取り組みを続けました。

まず「知る」という一歩から、その先の「行動」へ。女の子の教育への願いをこめたプランの世界規模アクション「Raise Your Hand ～世界の女の子のために手を上げよう！～」では国内の参加が年度末（2013年6月末）までに4万3,178件、その後、第2回の国連「国際ガールズ・デー」までには8万5,239件にのぼるなど、私たちの呼びかけや活動には年間を通じて多くの反響をいただきました。心温まる寄付、周囲に「伝える」という形での貢献や、新しい協働などが広がりつつあり、たいへん勇気づけられた1年でした。

景気回復の兆しがでてきている日本ですが、東日本大震災の復興をはじめ眼前の課題はまだたくさんあります。その上で途上国の課題にも思いを寄せてくださる皆さまには、心より感謝申し上げます。そのお気持ちを受け止め、支援者の皆さまと、活動地の子どもたちの信頼に応えるために、私たちは、国際組織をあげてさまざまな変革に挑んでいます。「One Plan, One Goal」を合言葉に、ひとつになり、子どもたちの権利を守り、彼らの可能性を開花させ得る社会を創るためのよりよい方法を追及し、議論を重ね、新たな指針や枠組みを作り、前へ進む覚悟です。

本日ここにお届けする2013年度年次報告書も、プラン・ジャパンが果たす責任のひとつです。どうぞ隅々までご覧いただき、支援の成果と私たちの姿勢をご確認ください。引き続き温かなご理解とご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

国際NGO
プラン・インターナショナル
理事長
エレン・ロイ
Ellen Løj

日本の皆さまからいただきましたご支援に、心より感謝を申し上げます。東日本大震災からの復興を進めるこの大切な時期に、途上国の子どもたちを思ってくださることに、特別な感謝の念を抱かずにはおられません。皆さまのご協力により、途上国の子どもたちの生活には、確実に前向きな変化がもたらされています。

2013年度、プランが最優先事項として取り組んだのは、意思決定の中枢に若者を据えることでした。それは、プランの活動地域においてはもちろんのこと、プランという組織の最高意思決定機関であるメンバーズ総会においてもです。「若者の参加」についてのプランの戦略は2013年の6月に組織内で承認を得て、今やメンバーズ総会の2議席を若者たちがオブザーバーとして占めています。この新しい動きは、子どもたち、支援者の皆さま、社会に向けてプランの説明責任をより強調すべく、プランが今後数年かけて取り組む遠大な変革の一部です。

2012年6月、ひとつの共通のゴールに向けて、世界中のプランの組織がより効果的に、より透明性をもってともに活動すべく、組織変革のための計画がたてられました。続いて2013年6月、組織内の説明責任を向上させるために、新たに6つのグローバルな基準をもうけました。プランのようなグローバルにわたる組織が複合的な変革を遂げることはとても難しいことではありますが、手ごたえのある変化をもたらすべく経営陣が動き出していると確信しています。

プランにとっての成功の試金石は、途上国に暮らす子どもたちの生活に継続的に変化をもたらすことができるかどうかです。今年度、プランの4つの活動地域を訪れ、私たちはそれを実現できていると確信しました。私たちのさらなる挑戦は、私たちを信頼し、寄付してくださった皆さまにお応えし、より大きな効果を確かにもたらすことです。

子どもたちの権利を守るべく現場で働くプランやパートナー団体のスタッフたちを支えるために、常に改善を重ねていきます。すべての子どもたちが、もてる能力を発揮できるために。

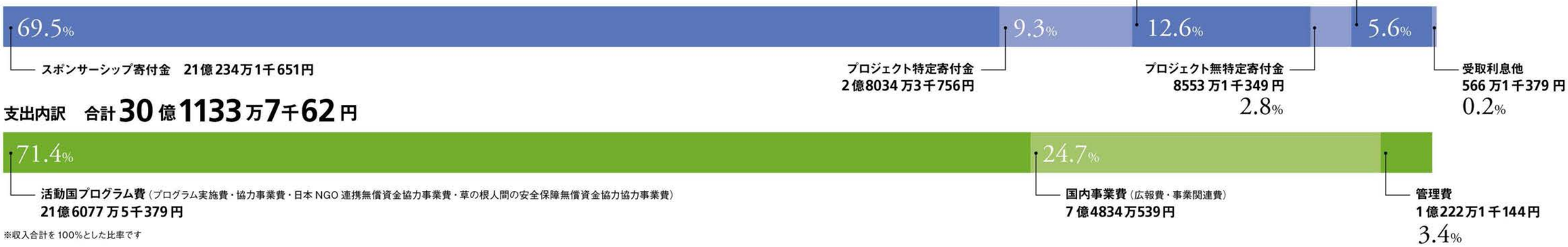
今後とも、プランの活動に皆さまからの温かいご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

数字で見る プラン・ジャパンの2013年度 決算の概要

2012年7月1日から2013年6月30日まで　※詳細についてはP35をご確認下さい

設立30周年を迎えBecause I am a Girlキャンペーンを本格始動したプラン・ジャパン。2013年は、さらに積極的に学校や市民社会を巻き込み、世界の女の子の現状について、日本での意識啓発を活発化した一年でした。

収入内訳　合計30億2487万3千662円



支出内訳　合計30億1133万7千62円

※収入合計を100%とした比率です

国内運営費内訳（広報費・事業費・管理費の合計）

合計8億5056万1千683円

国内運営費内訳の説明

人件費：職員給与、通勤費、翻訳料、社会保険料など　広告・広報費：広告掲載料、製作費、イベント実施費など
事務費：郵送料、印刷代（パンフレット製作費、機関誌製作費）、電話代、振込料金など
施設費：事務所賃貸料、水道光熱費、リース料など　諸雑費：火災保険料、書籍代、会費など

数字で見る一年（2013年6月30日現在）

スポンサー	3万9,937人
チャイルド	4万3,361人
年間に発送されたスポンサーからチャイルドへの手紙やギフト	2万4,355通
年間に受け取ったチャイルドからスポンサーへの手紙	6万5,610通
日本のスポンサーをもつチャイルドのうち、手紙やギフトを年間で1回以上受け取った率	42.21%
登録終了したチャイルド（卒業年齢、地域からのプランの撤退などの理由による）	5,360人
プラン・マンスリー・サポーター	1万6,101人
ガールズプロジェクト継続支援者	1,685人
プラン一般プロジェクトによせられた支援件数	6,865件
ガールズプロジェクトに寄せられた支援件数	8,526件
緊急支援によせられた支援件数	1,392件

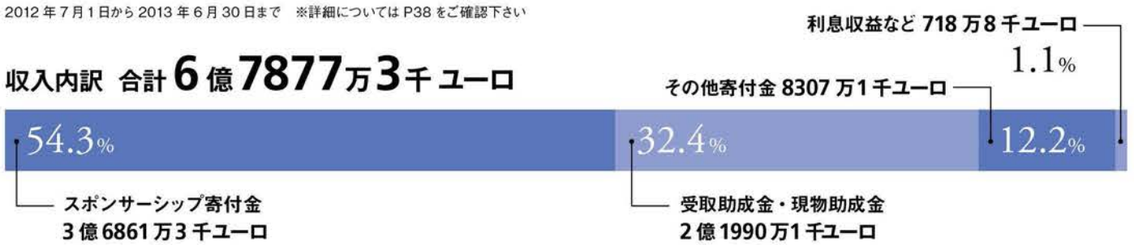
プラン特別プロジェクトによせられた支援件数	64件
支援内訳：企業・団体	35件
支援内訳：個人	29件
補助金による支援	8件
事務局を訪問した修学旅行生	92校263人
講師派遣	42回3,958人
プラン支援者の会の開催回数	57回
職員（常勤役員除く）	59人
来局ボランティア	46人
翻訳ボランティア	762人
プラン・フレンズ（開発教育ボランティアグループ）	19人
プランG-SChooL（学生ボランティアグループ）	18人

数字で見る プランの世界での2013年度 決算の概要

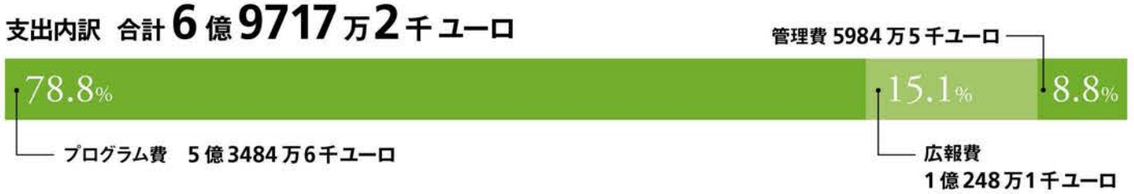
2012年7月1日から2013年6月30日まで　※詳細についてはP38をご確認下さい

プランの働きかけにより制定された国連の国際ガールズ・デー。
その記念すべき第1回を迎え、この分野におけるリーディングNGOとして、女子教育の大切さを国際社会へ大きく訴えました。

収入内訳　合計6億7877万3千ユーロ



支出内訳　合計6億9717万2千ユーロ



※1ユーロは130円です（2013年6月30日現在）　※収入合計を100%とした比率です

数字で見る一年（2013年6月30日現在）

スポンサー	111万6,764人
チャイルド	142万9,662人
チャイルド内訳　女の子	88万6,390人
男の子	54万3,272人
活動国	50カ国
活動地域	237地域
活動しているコミュニティ	9万229コミュニティ
年間に行ったプログラム *1	225件
年間に行ったプロジェクト *2	5,520件
職員（活動国）	8,379人

＊1　プログラムとは、各国が長期的視野（平均5年）のもとに計画・実施する事業の大枠です。1つのプログラムの中で、複数のプロジェクトが実施されます
＊2　各プロジェクトの規模には大きな違いがあり、件数だけで活動全体の規模をはかることはできません。この件数はあくまで参考です

一年の出来事

プランの一年を、日本と世界からそれぞれ振り返ります

プラン・ジャパンの出来事

参加者たちと Raise Your Hand

2012年 8月25日

プラン・フレンズが「途上国について学ぼう! 夏休みワークショップ」を企画実施

9月1日

Raise Your Hand アクションスタート

7月10日〜8月3日

アフリカ 3 カ国洪水緊急支援にプログラム部山形職員を派遣

10月11日

第 1 回 国際ガールズ・デー

記念イベント「Girl's Impact ～ガールが世界を変える～」を開催。P 2-3 に関連記事を載せています。

10月22日〜11月30日

「2013 年カレンダーつきグリーティングカード」キャンペーン

1 万 439 件の参加がありました

11月

チャイルドの紹介資料と「一年の歩み」がリニューアル

11月10日

事務局オープンデー

映像を交えたスポンサーシップの活動紹介や、活動地域の視察報告、ボランティア体験コーナーでのお仕事と、盛りだくさんの内容でした。

11月17日〜27日

寺田職員、ベナン出張

養鶏による収入増加プロジェクトをモニタリングしました。

12月5日

角田光代さんx増田明美さんトークショー開催

「Because I am a Girl- わたしは女の子だから」の出版を記念し、東京・代官山蔦屋書店にてトークショーを開催。お二人が、それぞれに活動地域を訪問した時の体験を交えて本が紹介されました。

12月

ベトナム少数民族地域における教育改善プロジェクト実施のため、プログラム部の船越職員がハノイへ赴任

12月25日

Because I am a Girl オリジナル教材完成「女の子にはチカラがある～未来を創るジェンダー教育」の冊子ができました

2月1日〜12日

ファンドレイジング部・楠職員が保健所建設プロジェクトほか、複数プロジェクトのモニタリングのためガーナへ出張

滞在した街では急遽地方ラジオ局への出演依頼がありました。

2月17日〜25日

佐藤局長、米州開銀基金によるグアテマラでの栄養改善プロジェクト開始式典に出席

2月22日〜3月3日

プラン・ジャパンの学生団体 G-SChooL インドスタディツアー実施

3月9日

東日本震災から 2 年 心のケア支援フォーラムを東京で開催

4月17日

プラン・アカデミー開講

Because I am a Girl キャンペーンやジェンダー平等について、理解を深め行動する「アクター」を養成する参加型の連続講座がスタートしました。

5月12日〜23日

ベトナム少数民族地域における教育改善プロジェクトのモニタリングのためプログラム部の道山職員が出張

プロジェクト実施対象校の子どもたちと

5月26日〜6月2日

ベトナムスタディ・ツアー実施

6月22日〜6月29日

大崎・長坂両理事　ネパール活動視察

活動地域の子どもたちと

2012年 7月 8月 9月 10月 11月 12月

2013年 1月 2月 3月 4月 5月 6月

世界の出来事

7月1日

プラン・イタリア誕生

21 番目の支援国として業務を開始。10 月の国際ガールズ・デーには、ヴィットリオ ・エマヌエーレ 2 世ガレリアで Raise Your Hand !

7月27日〜8月12日

ロンドンオリンピック

カナダの女子サッカーチームとシンクロスイミングチームは、Because I am a Girl のロゴとキャンペーンカラーのピンクを身につけ試合に臨みました。

9月

プランのツナミプロジェクトがユネスコの地域賞を受賞

プランの支援するコロンビアの若者グループが甚大な津波被害が予想される地域で、ツナミ警報システムの強化による危険の軽減の取り組みで賞をとりました。

10月11日

第 1 回 国際ガールズ・デー 世界中のモニュメントをピンクにライトアップ

ニューヨークにはプラン活動国から女の子大使たちが集結。P 2-3 に関連記事を載せています。

10月19日

IMF・世界銀行年次総会で若者の非雇用問題についての市民社会フォーラムを開催

プラン国際本部から副本部長のティプケ・バーグスマ、オランダとインドネシアから若者 2 人が登壇しました。

11月7日

グアテマラ西部で大地震発生 食糧物資を支援

11月

プラン・ドイツは、国内で最も透明性が高い団体として50団体の中から選ばれました

12月4日

台風ボーファ フィリピンのミンダナオ島を直撃

死者 1000 人以上、被災者は 620 万人に。多くの子どもたちが学用品を失いました。

濡れた本を乾かします

1月21日

プランが制作に関わった「ガール・ライジング」サンダンス映画祭で上映 BIAAG 大使フリーダ・ピントがスピーチ

1月27日

世界経済フォーラムにプラン CEO のナイジェル・チャップマンが参加

デジタル分野における男女格差について議論しました 。

2月6日

「世界女性性器切除（FGM/C）根絶の日」

プランは、地域住民や政府関係者などへ、広く意識啓発をすすめ、FGM/C 根絶に取り組んでいます。

3月4日〜15日

国連「女性の地位委員会」にプランの女の子たちが参加

プランは女性及び女児に対するあらゆる形態の暴力の撤廃及び防止を訴えました。エジプト、ウガンダ、ベトナム、インド、ペルーの若者が、「女の子からみた安全な街づくり」のリサーチに参加し、その結果を分科会で発表しました。

4月13日

国連教育サミット in ワシントン DC

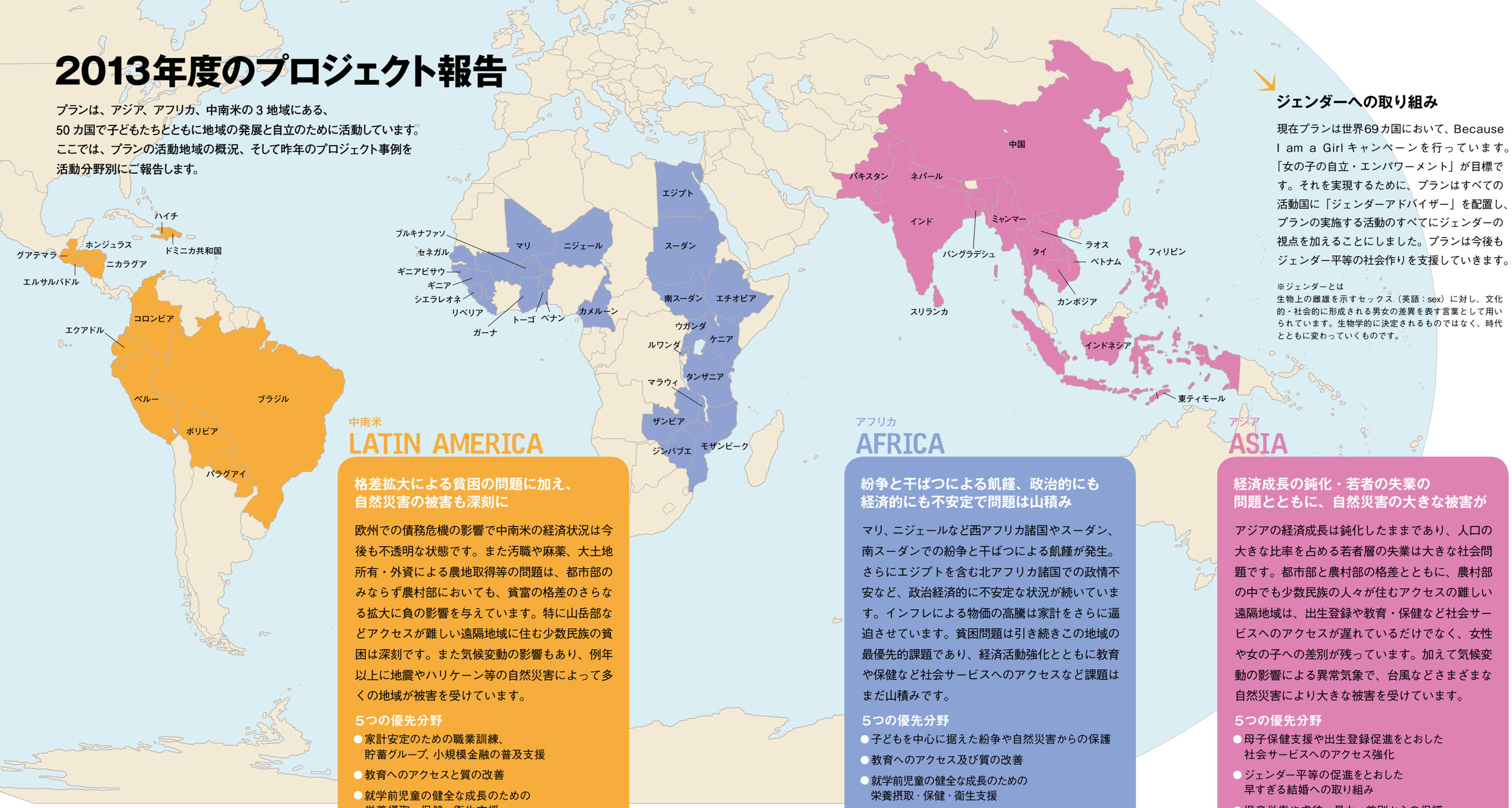
国連の特使ゴードン・ブラウン前英首相が「教育を最優先に」の運営委員会を開催。プランが支援する若者による啓発活動グループが参加し、女の子への教育を訴えました。

6月

マララさんが Raise Your Hand アクションに参加

2013年度のプロジェクト報告

プランは、アジア、アフリカ、中南米の 3 地域にある、
50 カ国で子どもたちとともに地域の発展と自立のために活動しています。
ここでは、プランの活動地域の概況、そして昨年のプロジェクト事例を
活動分野別にご報告します。



ジェンダーへの取り組み

現在プランは世界69カ国において、Because I am a Girl キャンペーンを行っています。「女の子の自立・エンパワーメント」が目標です。それを実現するために、プランはすべての活動国に「ジェンダーアドバイザー」を配置し、プランの実施する活動のすべてにジェンダーの視点を加えることにしました。プランは今後もジェンダー平等の社会作りを支援していきます。

※ジェンダーとは
生物上の雌雄を示すセックス（英語：sex）に対し、文化的・社会的に形成される男女の差異を表す言葉として用いられています。生物学的に決定されるものではなく、時代とともに変わっていくものです。

中南米
LATIN AMERICA

格差拡大による貧困の問題に加え、自然災害の被害も深刻に

欧州での債務危機の影響で中南米の経済状況は今後も不透明な状態です。また汚職や麻薬、大土地所有・外資による農地取得等の問題は、都市部のみならず農村部においても、貧富の格差のさらなる拡大に負の影響を与えています。特に山岳部などアクセスが難しい遠隔地域に住む少数民族の貧困は深刻です。また気候変動の影響もあり、例年以上に地震やハリケーン等の自然災害によって多くの地域が被害を受けています。

5つの優先分野

- 家計安定のための職業訓練、貯蓄グループ、小規模金融の普及支援
- 教育へのアクセスと質の改善
- 就学前児童の健全な成長のための栄養摂取・保健・衛生支援
- 性と生殖に関する健康とその教育の普及
- 児童労働や虐待・暴力・差別からの保護

アフリカ
AFRICA

紛争と干ばつによる飢饉、政治的にも経済的にも不安定で問題は山積み

マリ、ニジェールなど西アフリカ諸国やスーダン、南スーダンでの紛争と干ばつによる飢饉が発生。さらにエジプトを含む北アフリカ諸国での政情不安など、政治経済的に不安定な状況が続いています。インフレによる物価の高騰は家計をさらに逼迫させています。貧困問題は引き続きこの地域の最優先的課題であり、経済活動強化とともに教育や保健など社会サービスへのアクセスなど課題はまだ山積みです。

5つの優先分野

- 子どもを中心に据えた紛争や自然災害からの保護
- 教育へのアクセス及び質の改善
- 就学前児童の健全な成長のための栄養摂取・保健・衛生支援
- 性と生殖に関する健康とその教育の普及
- 家計安定のための職業訓練、貯蓄グループ、小規模金融の普及支援

アジア
ASIA

経済成長の鈍化・若者の失業の問題とともに、自然災害の大きな被害が

アジアの経済成長は鈍化したままであり、人口の大きな比率を占める若者層の失業は大きな社会問題です。都市部と農村部の格差とともに、農村部の中でも少数民族の人々が住むアクセスの難しい遠隔地域は、出生登録や教育・保健など社会サービスへのアクセスが遅れているだけでなく、女性や女の子への差別が残っています。加えて気候変動の影響による異常気象で、台風などさまざまな自然災害により大きな被害を受けています。

5つの優先分野

- 母子保健支援や出生登録促進をとおした社会サービスへのアクセス強化
- ジェンダー平等の促進をとおした早すぎる結婚への取り組み
- 児童労働や虐待・暴力・差別からの保護
- 若者の能力強化を通した就業促進
- 自然災害への緊急支援

プラン・ジャパンの支援方法

プラン・ジャパンでは、以下の方法を通じて全国約 6 万人の皆さまから寄せられた寄付金をもとに活動しています。

S プラン・スポンサーシップ

スポンサーと呼ばれる継続的な支援者からの資金で、活動地域の子どもや住民が時間をかけて地域の改善を進めます。スポンサーは特定の子ども（チャイルド）との交流を通じ、異文化への理解を深めます。ミャンマーを除く 49 カ国で実施。

M プラン・マンスリー・サポーター

「ストリート・チルドレンと働く子どもたち」「紛争と災害」「ＨＩＶとエイズ」「虐待」「障がい」。途上国の子どもたちが直面する社会問題の解決に特化して支援します。2013 年度は 15 カ国で 17 プロジェクトを実施。

一般 プラン一般プロジェクト

プランの専門分野である地域開発の代表的なプロジェクトやガールズプロジェクトを、年度ごとに選んで支援します。寄付をする際に、関心のあるプロジェクトを指定できます。2013 年度は 13 カ国で 13 プロジェクトを実施。

特 プラン特別プロジェクト

独立したひとつのプロジェクトを、おひとりの支援者、または法人やグループにまるごとご支援いただく方法です。現地のニーズと支援者の希望を考慮します。2013 年度は 20 カ国で 58 プロジェクトを実施（教育：40 件、保健：9 件、水と衛生：6 件、その他：3 件）。

緊 緊急・復興支援

災害や紛争が生じた際に、支援を募ります。子どもの権利保護の視点を盛り込み、復興までを視野に入れた長期的な支援を行います。2013 年度はアフリカ 3 カ国やフィリピンなどで緊急支援を実施。

補 補助金によるプロジェクト

公的機関などの補助金制度などを活用した支援。現地事務所と協力してプロジェクトを形成、実施します。2013 年度は、5 カ国で 8 件のプロジェクトを実施。

教育

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが教育を受ける権利を獲得し、それを十分に享受する」

女の子への補習教育　ルワンダ　S

活動と成果
❶ 中途退学の恐れのある女の子を中心に、週末や休日に補習トレーニングを実施
❷ 中途退学の減少・学校への復帰がすすみ、生徒の意欲・自尊心が向上

女子教育の軽視、自尊心の低さ。自立を阻む要因を補習教育で改善

教育を続けていくため補習を受ける女の子たち

補習授業で行われる、単語を作るゲーム

ルワンダでは性別による格差が根強くあり、女子教育に否定的な影響をもたらしてきました。男女の 22% が、婚姻関係において男性は女性以上に教育を受けているのが望ましいとしており、同等の教育を受けていることに賛成の男の子は 33%、女の子は 13% という結果です。

女の子への教育は得にならないという考え方が背景に

ルワンダの家庭の多くは、女の子よりも男の子を学校に通わせることを好みます。ほとんどの家庭は貧困状態にあり、女の子を教育しても、知識と得られた富は結婚後の家にもたらされ、実家には何も残してくれないだろうという考え方があるからです。

また、望まない妊娠や薬物乱用、月経期間の過ごし方など知識不足による問題のほか、女の子自身が自尊心の欠如、意思決定プロセスに参加することへの恐れといった問題を抱えています。経済的には、特に中学校に通う女の子の教育費が課題です。

女の子をエンパワーメントする補習教育を実施

補習教育は、中途退学する恐れがある女の子への支援を主な目標としています。プランは、東部のブゲセラ活動地域とガツィボ活動地域の中学校と高校に通う 300 人以上の女の子を対象に、各校から 10 代の女の子 5 人（13 ～ 18 歳）を選抜してトレーニングを行いました。対象となる女の子たちは、貧困家庭の出身や孤児であること、自尊心が欠如している傾向にあること、成績が遅れをとっていることなどを条件に選ばれました。

補習授業では、ガイダンスとカウンセリングを行い、自尊心と自信、意思決定プロセスへの参加、教育の重要性、ジェンダー平等、女の子の成長と経済の成長の関係などをテーマに、トレーニングが行われました。

また、特に弱い立場にある女の子を対象にした奨学金により、少なくとも 254 人の女の子が基礎教育を受けることができました。

ニラハビマナさんの声

学習を通して、将来の目標を設定する自信がつきました

補習で学んだことを伝えるためコミュニティの人々の前で演劇を披露

19 歳（高校 2 年生）の女の子、ニラハビマナさんは、補習トレーニングを受けた経験を次のように語っています。

「高校 1 年生のときに妊娠。隠そうとしましたが両親に知られてしまい、ずっと罵られました。それで学校を辞めることを決め、両親から離れておばと暮らすことにしました。出産後、おばが復学して勉強を続けるように助言してくれましたが、私はとても恥ずかしくてできずにいました。そんなときプラン・ルワンダが行っていた補習トレーニングに参加することになりました。そこで私が最初に学んだことは、『過去の過ちが将来をつくる』でした。純潔を失ったけれど人生は失っていません。補習トレーニングで自分は特別な存在であると学び、教育を通して将来の目標を設定する自信がついて、今は友人たちと仲良く暮らしています。私の生活、言動、教育と将来に対する姿勢は、本当に変わりました。プランには、まだトレーニングを受けていない生徒たちへ補習トレーニングを続けてほしいと思います」

小学校の教室建設　インドネシア　一般

活動と成果
❶ 小学校２校で６教室、トイレ４基、給水設備を新設
❷ 校舎までの歩道の舗装工事、高波を防ぐ防波堤の設置

新しい教室を2校に設置。まわりの安全対策も

日本のみなさん、どうもありがとう！
（ヌルサダ小学校の児童たち）

フローレス島に位置するナゲケオ県は住民の一人当たりの年間収入が400米ドルと圧倒的に貧しい地域です。教育予算は少なく、子どもたちは劣悪な環境で学んでいます。教室不足は深刻なうえ、既存の教室はヤシの葉などでできた脆弱なものが多く、全体の40％が修繕を必要としています。中途退学する子どもは2010年には1.6％いました。

長引く雨期による遅れを保護者や地域の協力でカバー

このプロジェクトの対象校の１つであるランボ小学校は、道路から学校の敷地まで、すべて人間の手で建設資材を運ぶ必要がありましたが、子どもの保護者からなる学校委員会のメンバーが総出で運搬を手伝い、無事工事が終わりました。また、この通り道も、大人でも歩くのが困難な状態だったので、子どもたちの通学のために舗装工事を行いました。

もう１校のヌルサダ小学校でも同様に保護者などの地域の人々の協力を得ながら、無事に期間中に工事が終わりました。また、学校のすぐ裏側が海なので、教室建設に加えて高波を防ぐためのコンクリート製の防波堤を建設しました。

参加者の声
ランボ小学校６年
ナタリア さん
「以前は教室の状態が悪かったので、自分の学校が好きではなく、欠席してしまうこともありました。今はきれいな新しい教室で新しいイスや机で勉強できるので、とてもうれしい。プランと支援者のみなさんに感謝します」

基礎教育支援　ネパール　S

活動と成果
❶ 奨学金の支給により中途退学が減少、児童の意欲・自尊心が向上
❷ 障がいのある子どものニーズに合った教育の支援

奨学金の支給とともに基礎教育の質の向上をはかる

授業を積極的に受けるプラブくん（手前）

活動地域では、女の子や、ダリット（カースト制で最も地位の低い人々）の子ども、障がいのある子どもなど社会的・経済的に弱い立場の子どもたちは、基礎教育（幼稚園から８年生まで）を受けたり、修了する機会が限られています。

特に障がいのある子どもたちの多くは、特別仕様の教材の不足、孤独感や自信のなさ、友だちや先生によるいじめ・からかいを恐れているなどの理由から、就学しても授業に出席しないこともあります。

障がいのある子どもをはじめ困難な状況下の子どもを支援

プランでは、社会的・経済的に困難な状況下にある子どもたちを対象に奨学金を支給しています。今年度は、合計３万5,421人の子どもがその対象となり、そのうち、障がいのある子どもは726人でした。また、学校の運営能力と教育システムの改善を通じて基礎教育の質の向上を図り、子どもにやさしい暴力のない授業を広めることに注力しています。政府に対しては基礎教育の無料化をはじめとする基礎教育全般の改善を働きかけています。

参加者の声
弱視という障がいをもつ
プラブ くん
「僕は生まれてからずっと目がよく見えないけれど、友だちがすることは何でもできます。僕にとって最大の助けとなったのはプラン・ネパールの奨学金制度です。おかげで勉強を続けることができ、試験にも合格。将来は政府の仕事に就くことが目標です」

学習支援スペースで進級を応援　ドミニカ共和国　S

活動と成果
❶ コミュニティ委員会による学習支援スペースの管理運営・学習指導
❷ 読み書き・計算能力の指導による進級の増加、児童の意欲・自尊心の向上

発達レベルに合う指導をコミュニティが推進

学習支援スペースで表現力を培う子どもたち

ドミニカ共和国の教育の質は中南米諸国の中でも最低の水準にあります。子どもたちは発達レベルに合った学習をしておらず、教育システムは機能不全に陥っています。活動地域では10人のうち２人が留年し、１人が中途退学している状況です。プランではこうした問題を解決するため、全活動地域の、進級があやぶまれる小学３・４年生を対象に、読み書き・計算の力を養う「学習支援スペース」プロジェクトを実施しています。

コミュニティで管理・運営し、子どもも大人も達成感を得る

学習支援スペースは学校内または公共施設で25～30人を対象に開催されます。コミュニティ推進員がスペースを運営し、トレーニングを受けた指導員が、特別な教材を使いながら一人ひとりのニーズに合わせ指導を行います。子どもたちは楽しみながら学び、自尊心も身につけていきます。今年度は、610人の子どもたちが参加し、年度の終わりにはその84％が次学年に進級しました。コミュニティ全体が関与することで、当事者意識を持ち、スペースを継続していく自信や達成感につながっています。

参加者の声
10歳の男の子
ヨスマール くん
「僕にとってこのスペースはとても大事です。行くのをやめれば進級できないかもしれません。ここで読み書き算数をいっぱい勉強します。いちばん好きなところは、友だちや先生と一緒に楽しく過ごせることです」

女の子の教育を後押し　マラウィ　S

活動と成果
❶ 教師やコミュニティ指導者・PTAへのトレーニングにより教育の質が向上
❷ 母親グループによる再入学への呼びかけなどで中途退学が減少

初等教育を受けられない女の子たちを支援

笑顔で夢を語るリタ

マラウィは、人間開発指数（国連開発計画2013による）では対象187カ国中170位に位置づけられる最貧国の一つ。約３分の１の子どもたちが経済的理由のため初等教育を受けることができません。中でも、早すぎる結婚と妊娠を助長する慣習と、女の子に配慮のない学校環境が悪影響を及ぼし、女の子が学校を中途退学する要因になっています。

女の子の復学を呼びかける母親たちによるキャンペーンも

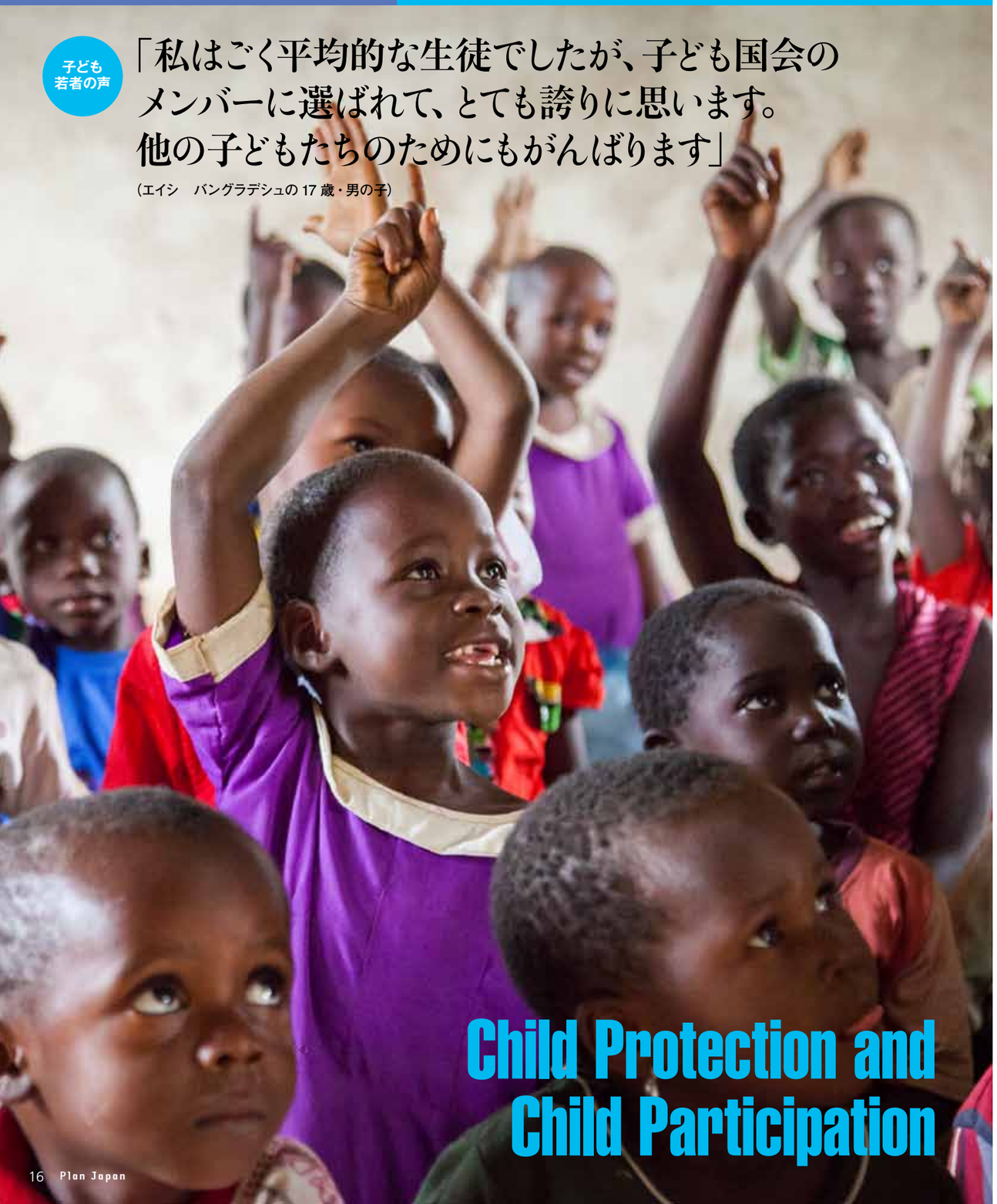
児童・生徒主体の指導法、ジェンダーに配慮した指導法、子どもの権利の理解・促進を目的としたワークショップを総計で705人（男性438人、女性267人）の校長と教師を対象に実施。コミュニティ指導者やPTAにもトレーニング・セッションを行い、コミュニティでの活動を推進できるようにしました。母親たちのグループは、戸別訪問などを通じて、中途退学したすべての子どもたち、特に女の子と孤児や弱い立場の子どもたちに復学を呼びかけています。また、女の子自身を対象とした３日間のトレーニングも行いました。

参加者の声
28歳で２児の母
リタ さん
リタさんは、早すぎる結婚・離婚を経験し、２人の子どもを育てながら学校に復帰。「プランの意識啓発活動によって女の子への教育の重要性がわかり、励まされました。看護師になるという目標を叶えるために学校で勉強に励んでいます」

子どもの保護・子どもの参加

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが、虐待、ネグレクト（無視）、搾取、暴力から護られる権利を、また市民として社会活動に参加する権利を手にする」



子ども若者の声

「私はごく平均的な生徒でしたが、子ども国会のメンバーに選ばれて、とても誇りに思います。他の子どもたちのためにもがんばります」

（エイシ　バングラデシュの 17 歳・男の子）

子どもと若者の社会参加の促進　エクアドル　S

活動と成果
❶ 青少年をトレーニングして社会参加スキルが向上、若者のネットワークづくり
❷ 保護者や地域リーダーの意識啓発と関係省庁の能力強化、メディアへの働きかけ

権利やスキルを楽しく学ぶ子どもの講習会

エクアドルでは、いまだ子どもと若者の社会参加は進んでいません。子どもの参加に関連する関係省庁もあり、憲法では、政府のさまざまなレベルでの意思決定、企画、管理、社会的制御プロセス、および意見表明における、すべての市民の参加の権利と原則を明示しており、「市民参加」を国民の第 5 の権利であると定めています。

しかし、現状は、たった 23%の子どもしか生徒会に属さず、先住民族とアフリカ系の子どもの 50%が自分たちの意見が教育中枢に聞き入れてもらえていないと感じています。現在、「青少年諮問協議会」を設置しているのはエクアドルの全区の 38%です。特に女の子たちは、性別を理由に家事を強いられ、参加の機会がより少なくなっているという現状がありました。

楽しいイベントで子どもや若者に意識づけ

そこでプランは、子どもグループや若者グループを通じて、子どもの権利についての知識を子どもたちの間に広める努力をしました。講習会を開き、子どもたちは、楽しみながらコミュニケーション力やリーダーシップ、意思決定や意見の発表といったスキルを身につけました。子ども同士で学びあいながら、地域を越えてのネットワークも広がっています。

また、そうした子どもたちを支援するコミュニティ・オンブズマン組織も研修を受け、連携を強めています。

青少年の社会参加を実際にバックアップ

今年度はプランが後援し、全国子ども議会が指揮したキャンペーンを通じ、子どもたちの声が、大統領候補たちの耳に届けられました。またプランが展開している Because I am a Girl キャンペーンの各イベントでは、子どもと若者が主役的役割を果たすなど、青少年が活躍する機会を作り出しています。

国連「子どもの権利条約」では、子どもを、彼ら自身の生活における主役として尊重しており、エクアドルでもそれを実現できるよう、取り組んでいく方針です。

ユリサさん（15 歳）の声

内気な性格から180 度変化。将来は子どもを助ける人になりたい

インタビューを行う子どもグループメンバー

ラジオでメッセージを発信する子どもたち

起伏の激しい土地ロハに暮らす 15 歳の女の子、ユリサさんは、プロジェクトに参加してどのように変わったかを次のように話します。

「私はとても内気で、自分の気持ちを伝えることを恐れていました。両親と話すこともとても苦手でした。集団に参加するのは嫌でしたし、グループミーティングに行くのをやめようともしました。最初は、大勢と何かをしたり、人前で話すことが、とてもつらかった。

でも毎日通って、徐々に自信をつけ、今ではリーダーとして、グループの主要メンバーになりました。

プロジェクトに参加して、私は 180 度、変わりました。おどおどした私は過去のことです（笑）。今は、自分には権利があり、自分から自然に意見を伝え、理解してもらえると感じています。家族との関係も変わりました」

ユリサさんは現在、学校の生徒会長やロハ州の子ども指導員委員の委員長などを務めています。この経験を通じて、子どもたちが、ゲリラ戦への参加や麻薬の密輸を強いられたり虐待を受けていることなどに強い関心を持つようになりました。「できるだけ勉強して、経済学者かジャーナリストか心理学者になるという大きな夢をかなえたいです。そして、より多くの子どもの声を拾い上げ、助けてあげたいと思います」

弱い立場にある子どもの支援と保護　カメルーン　M

活動と成果
❶ 学用品支給、医療、出生登録証発行、心のケア、職業訓練など
❷ 子どもの権利保護啓発キャンペーン（計 50 回）やリフレッシュ研修（計 1,110 人）

物心両面の支援で子どもの心を守る

子どもの権利保護に関する研修に参加した子どもたち

カメルーン北西地域では、心の状態が不安定な子どもが多いことが調査で明らかになりました。これは性的虐待、家庭内暴力、貧困とともに、この地域がカメルーン国内でもっとも HIV 感染率が高く（9%）、多くの子どもが親や親戚を失っていることと関係があります。

さっそく現れた効果

プロジェクト開始から約２年半が経過。これまで暴力や虐待を受けた子どもたち計 2,107 人に物心両面の支援が届き、彼らは新しい生活をスタートさせています。特に教育面での効果が現れ始め、学習意欲を取り戻し、退学率も減少しています。成績も向上し、実施４地域のうち２地域では、卒業試験の合格者がそれぞれ 97%、92%と格段に伸びました。子どもの権利保護に関する啓発活動を通じて、保護者や教師、地域住民の行動にも変化が見られ、家庭内暴力や学校での体罰も減ってきています。また、協力して虐待を摘発し、多くの性犯罪者を立件することができました。今後は子どもの権利保護に関する関連法の執行を強化するよう、政府に働きかけていきます。

参加者の声

小学生の女の子（10 歳）
ステファニー さん

「以前は教材や学用品を持っていなかったので、週に１～２回しか学校に行かず、学校でも邪魔者扱いされていました。でも支援で教材と学用品をもらい、毎日学校に通えるようになりました。これからはたくさん勉強して将来は教師になりたいです」

ストリートチルドレンの保護　バングラデシュ　M

活動と成果
❶ 子どもの保護を目的としたセンターで安全な生活や食事、職業訓練の場を提供
❷ 地域への意識啓発活動を通じ、問題解決のための関係者の理解を得る

センター活動で安全な生活と仕事を提供

栄養価の高い食事を提供しました

首都ダッカでは、多くの子どもたちが、ごみを拾ったりしながら、十分な食事を得ることもできず、不衛生な路上で生活しています。子どもたちは教育の機会を奪われ、劣悪な環境で働いています。性的搾取や身体的虐待を受けている子どももいます。

子どもの保護と未来へのチャンスを

年間約 1,700 人のストリートチルドレンが、７カ所の働く子どものセンターを利用し、さまざまな活動に参加することができました。特に、健康に関する意識啓発活動や医療サービスの提供では、実際に高熱を出す子どもや赤痢にかかる子どもの数が減少するなど、一定の効果がみられました。さらに、この１年間で 924 人が出生登録を行ったほか、職業訓練を通じて、安全な仕事に就き、収入が増えた子どもたちもいます。また、これまでの活動で地域の理解を得ることができたのも大きな収穫です。地元自治体や警察、さらに影響力のある地元の有力者たちが関連のイベントに積極的に協力してくれました。

参加者の声

センターの子ども
シュワーナ さん

「センターのおかげで、とても助かっています。私は毎日センターから学校に通い、夜はおいしい食事をセンターで食べています。私は学校に行くチャンスを得ることができましたが、ほかの多くの子どもたちも私のようなチャンスを持てるように願っています」

子どもの権利と保護についての意識啓発活動　ケニア　S

活動と成果
❶ 102 人の村長、422 人のコミュニティ委員へのトレーニングによる指導力の向上
❷ 指導の結果、親の責任意識が改善し 8,000 人が出生登録された

家庭や学校で子どもの権利について再教育

家族生活指導員よりトレーニングを受ける PTA

ケニアでは、子どもの権利に対する人々の意識が低く、家庭・学校・コミュニティ・自治体で子どもを守る効果的な仕組みがないことが大きな問題となっています。プランでは、児童労働、早すぎる結婚・妊娠、出生登録の低さ、育児放棄などから子どもを守る根本的な仕組みづくりに向け、行政や政府レベルへの働きかけを行っています。

生活指導員による地道な活動

貧しい農村地域では、多くの親が子どもを家に残し、都会へ仕事を探しに出かけます。これは育児放棄、子どもに対する無視、身体的虐待などの児童虐待の増加につながっています。家庭を子どものための基礎的なセーフティネットとして強化するため、教育省と協力して家庭生活指導員の能力向上に努めました。家庭生活指導員は、一定の基準によってコミュニティより選出され、手本となる人物として尊敬されています。指導員に対して、家庭におけるしつけ、性犯罪防止、子どもの権利、薬物乱用を食い止めることなどのカウンセリング技術向上のトレーニングを行いました。

参加者の声

家庭生活指導を受けた母親
ジャシンタ さん

「指導員の定期的な訪問のおかげで、私と夫が親としての役割、重要性、そして子どもに対する責任を自覚し、正しい育児ができるようになりました。おかげで家族は救われ、子どもたちは元気に学校に通っています。とても感謝しています」

子ども投票プロジェクトによる成人年齢引き上げ運動　ベトナム　S

活動と成果
❶ 3 万 7,557 人の若者が、法改正に対する意見を投票で表明
❷ 奨学金の支給や障がいのある子どもたちへの教育方法の改善

成人年齢を引き上げて子どもを守る

「子どもによる投票」に参加する中学生たち

現在ベトナムでは、さまざまな法令で成人の定義を 16 歳としていることが多いのですが、これは「子どもの権利条約」による子どもの定義と合いません。16歳から 18 歳の青少年は未成熟なため、プランでは 18 歳を成人年齢として統一することを政府に働きかけています。

世代の変化による“成人”の見直し

２つの法改正（成人とみなされる年齢の 18 歳への引き上げ、子どもフォーラムへの参加）に関して、子どもたちの意見を聞くために、今回初めて子どもによる投票を行うことが、児童局により認められました。予定されていた調査人数は２万人でしたが、実際に参加した人数は３万 7,557 人に上りました。現代の若者たちは教育や就職のために、将来は故郷を離れることも視野に入れています。彼らの選択肢を広げるためにも、これまで以上に注意深く保護し、権利を守る必要があると考えています。また、政府と国連子どもの権利委員会との連携が強まり、他国の子どもたちと同等の権利を得られることが期待されています。

参加者の声

投票参加者（14 歳）
グエン ティ ホアイ さん

「大人に私の意見を聞いてもらえたらいいと思います。私の母はいまだに私を子ども扱いし、私の考え方は子どもっぽいと思っています。24、5 歳になるまで結婚はしないつもりです。飛行機の客室乗務員になって、世界中を見て回りたいです」

保健・性と生殖に関する健康と権利

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたちが人生のスタート時期を健康的に過ごせる権利を実現させる。子どもたち、若者たちがHIVの予防や治療を含む性と生殖に関する権利を手に入れる」

Early Childhood Care and Development, Sexual and Reproductive Health

子ども若者の声

「ほとんどの若者は自分の身体についての知識がありません。でも、私が得た知識を彼らに伝えていけば、皆で一緒になって未来を変えていけるはずです」

（マリア　ブラジルの15歳・女の子）

乳幼児保健の推進　スリランカ　S

活動と成果
❶ 保健・医療機関・省庁と連携して、保健員・助産師約400人をトレーニング
❷ 5歳未満の子ども1万2,000人の家庭に保健講習・栄養指導

約3,500の家庭に栄養指導と乳幼児教育を

栄養指導教室に参加した母子

今年度、プランは乳幼児保健を進展させるために、地元の保健省や保健医療機関、コミュニティとの連携に力を入れました。新たに中部クルネガーラ地域での活動を開始し、全活動地域合わせて、5歳未満の乳幼児約1万2,000人が、このプロジェクトに参加しました。

健康と健全な発育のために0～5歳は最も重要な時期であるにもかかわらず、親や地域社会が正しい知識と責任感をもっていません。プランは、低体重児や知力の発達不足などの問題の解消を目指しました。

栄養教室や乳幼児教育の推進を広い範囲でフォロー

子どもの五感の成長と栄養状態の改善がもたらされることから、栄養指導教室の開催や乳幼児教育を推進しています。約3,500もの家庭がそこに参加し、うち3,100が家庭内に乳幼児のためのスペースを設け、約400人の保健員・助産師が、コミュニティ住民800人とともに、乳幼児保健のためのトレーニングを受けました。コミュニティの住民グループは家庭訪問を行い、社会的・物理的に孤立している家族を励まし、子どもの体重測定をするために定期的に診療所に行くことや、栄養指導教室や乳幼児教育活動に参加することを勧めました。貧困家庭のために、コミュニティの住人たちが支援して、乳幼児のためのスペースが作られています。さらに、活動に参加した母親たちが新たに別の母親たちに知識と技能を伝え、知識のネットワークを広げていくように進めています。

父親も栄養教室などに参加 性差別や家庭内暴力をなくす活動も

男性の参加も、少しずつですが確実に増えています。約1,000人の父親が、栄養指導教室や乳幼児教育といった活動に参加したことも注目に値します。

現在、コミュニティはジェンダー（社会的性別）による差別や家庭内暴力をなくすための活動も併せて実施しています。家族が幸せであることが、子どもの健康に大きな影響を与えていることが判っているからです。

カンチャナマラさんの声

指導のおかげで子どもや夫に変化が。ほかの村にも伝えます

講習会で指導にあたる保健推進ボランティア

栄養指導教室・乳幼児教育に参加し、アドバイスをもらったカンチャナマラさん（3人の子どもの母親・30歳）は、食事内容に気をつけるだけでなく、「授乳するときは、外のきれいな花や木や鳥を見せたり、鳥の鳴き声を楽しく聞かせました。さまざまな色や形の花を見せたりもしました。また、加工食品ではない食べ物や、自分たちの家庭菜園で育てた野菜を食べさせました。そうした活動を手帳に日々記録し、月に1回診療所に行ったあとには、子どもたちの体重も記録しました」とうれしそうに話します。

「仲間の母親と“幸せカレンダー”に、家族全員の“幸せレベル”を毎日書きこむようにすると、私の夫も、いろいろな家事を手伝ってくれるようになりました。夫はそのほかにも子どもたちのための遊戯室を作ってくれました。うちの子どもだけでなく、近所の子どもたちも、この新しい遊戯室に遊びに来ます」

彼女と仲間の母親は、ほかの村にも、自分たちの活動によって子どもたちの体重が増加しただけでなく、知力も発達したことを伝えようとしています。

家庭菜園による栄養改善　インド　S

活動と成果
❶ 袋や甕で野菜を作る「土地がいらない」家庭菜園の提案と実演
❷ 女性自助グループによる試みが広まり、各家庭で食物と収入を得る

袋や甕（かめ）の中で野菜を育てる農法を提案

家庭菜園でトウガラシを栽培する女性たち

北西部ヴァラナシ活動地域の農村に暮らす村人のほとんどは土地を持たず、男性の多くは、日雇い労働や農場での小作などに従事しています。低収入のため、住民たちは市場で青野菜を買うこともできず、子どもたちは栄養のある食事を取ることができません。コミュニティ内に十分な農地がなく、野菜を育てられないことも大きな問題でした。

乗り気でない女性たちに根気よく指導

プランでは、SRF という地元の NGO と協力して、地域の女性たちに働きかけ、自助グループを組織しました。男性が働きに出かけている昼間、ビニール袋や麻袋や陶製の甕の中で葉野菜を育てるという「土地を必要としない家庭菜園」を提案し、話し合いを重ねたり、実際にやってみせたりしました。使っていない裏庭の狭い土地を利用するという方法に、最初は乗り気でなかった女性たちですが、５軒の家が収穫を得たことで、50 の家庭へ、さらにほかのコミュニティへと広まりました。家で食べる分の野菜がとれるようになったおかげで子どもたちの栄養不足が改善されただけでなく、余った野菜を売って、新たな収入も得られました。今では、村の女性たちはみな、この取り組みのおかげで子どもたちが健康でいられることを喜んでいます。

きのこ栽培のトレーニングを受ける女性たち

感染症を予防　ギニアビサウ　S

活動と成果
❶ コレラ予防のための意識改革活動の結果、対象地域での発生件数がゼロに
❷ 行政と協力し、6万7,012 人の子どもへ予防接種を実施

コレラ、ポリオなどの撲滅を呼びかけ

トレーニングを受ける人々

ギニアビサウでは、乳幼児死亡率が非常に高く、５歳未満児の死亡推定数は 1,000 人のうち 158 人とされています。農村地域の住民のおよそ半分が安全な水を飲むことができず、わずか 20 分の１の住民しかトイレを使用していません。また基本的な衛生環境に対する関心が低く、水を媒介とするコレラなどの病気や他の感染症の発生率が高いことが問題となっています。

メディアや家庭訪問で周知

この状況を改善するため、プランでは、東部のバファタ・ガブ地域を中心に、水と衛生の大切さを訴えるラジオ討論会、清掃とごみ処理を呼びかける運動などを行ってきました。ほかにも、4,650 の井戸、3,680 のトイレ、９つのマーケット、25 の学校、７つのバス停留所、２つの病院の大々的な清掃も実施。その結果、昨年は、国全体で 3,141 件のコレラの発生が報告されたのに対し、プランの活動地域では０件でした。一方で、はしかとポリオの予防接種を合計６万7,012 人の子どもたちへ実施しました。また 681 人のコミュニティ保健員、30 人の助産師へのトレーニングを行い、乳幼児死亡率を減らそうとしています。

参加者の声
小学校６年生の女の子
サリマト さん
「トレーニングに参加して予防が大切なことがわかりました。そしてこれまでの習慣を見直そうと、村の人たちみんなの意識も変わってきたことを実感して、うれしく思っています」

母子の保健衛生を改善　ザンビア　一般

活動と成果
❶ 保健所、病院での出産率はプロジェクト前に比べてそれぞれ 44%、5%増加。
❷ ラジオ番組や啓発キャンペーンを通じて保健知識の向上を図り妊産婦死亡率が低下

妊産婦を含む女性への保健指導

リヤカー付き救急自転車 Zambulance で緊急搬送された妊産婦

ザンビアの農村地域では、近年、妊産婦死亡率は減少しているものの、10 万件当たり 470 件と、国連の目標基準 185 件に遠く及びません。新生児の死亡率も高く、死亡例の 70％は農村地域です。これは妊産婦や新生児の多くが適切な母子保健サービスを受けられないことが大きな原因ですが、保健所では保健員の数が不足しており、彼らの知識、技能も十分ではありません。医薬品や設備も慢性的に不足しているうえ、緊急対応が可能な病院が遠いことも、問題でした。

現地の事情に合ったシステムを

プランは、北部ルアプラ州マンサ郡の7村に「安全な出産支援グループ（SMAG）」を結成、保健員とともに妊産婦や母親、新生児のいる家庭を回って安全な出産・新生児ケアに関する情報を提供、保健所での定期的な受診と出産をうながしています。また、SMAG メンバーと保健員計 63 人に携帯電話とソーラー充電器を支給。急患が発生すると SMAG メンバーは保健所に連絡し、待機しているリヤカー付き救急自転車で医療機関に搬送するシステムを整えました。

参加者の声
SMAG メンバー
ダイネス・チブイエ さん
「これまで夫たちが妊産婦の妻のケアをすることはほとんどなかったのですが、今では産前健診や緊急搬送の際に付き添うなど、ポジティブな変化が見られるようになりました。私たちが行ってきた啓発活動が実を結んだのです」

若者による性と生殖に関する健康と権利の推進　ボリビア　S

活動と成果
❶ 性と生殖に関する健康と権利について研修（若者約 2,500 人、公務員約 50 人）
❷ 若者のネットワーク化で 10 代の望まない妊娠が減少（年間 9%減）

若者自身の主体性を育成し性意識を変革

性と生殖について学ぶ若者たち

ボリビアでは、若者の衝動的な性行動や知識不足などにより約 30％の女性が 18 歳以前に妊娠し、レイプの加害者男性が罰せられることは稀です。10 代の母親は中途退学して子どもを養うために働きます。周囲からの批判で傷つき、また多くは内々に堕胎し、命にかかわる深刻な結果になることもあります。

若者の組織化で性教育に効果

プランは、全活動地域の 15 ～ 24 歳の若者、子どもと青年のための自治体オンブズマン、教育・保健サービスの職員を対象に、「性と生殖に関する権利」プロジェクトを実施。青年グループを組織して、女性の権利、性、暴力の防止、家族計画、HIV の予防などについて研修をしました。さらにグループが学校を訪問し、意見交換や啓発用ファクト・シートなどを用いて自分たちの知識を仲間に広める手法を取りました。独自の中間評価では、10 代の望まない妊娠が前年より 9％減少、若い男性は「男らしさ」という観念が社会環境にいかに影響を受けているか気づき始めました。今後は、親たちのプロジェクト参加も奨励していきます。

参加者の声
15 歳の女の子
イブリン さん
「研修を通じて、私たちは性、権利、ジェンダーといった、たくさんの有意義なことを学びました。でも、こうした研修で、特に女の子がセックスについて話したりすることは性行動に走るのを奨励するようなものだと反対する親たちもいまだにいます」

家計の安定

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが経済的に安定した生活を送る権利を手に入れ、有意義な職を得るためのスキルを身につける」

共同銀行プログラム　パラグアイ　S

活動と成果
❶ 小規模信用貸付（マイクロクレジット）で収入増、教育や健康への投資
❷ 家計管理トレーニングで金融知識、会計スキルを向上

小規模貸付で低収入女性の収入増をはかる

小規模信用貸付を利用して野菜を栽培する家族

失業などが慢性化し、生活改善の資金もないという、この国の根深い問題を解消しようと、プランでは2008年から小規模金融サービスを行う「共同銀行プログラム」を実施しました。すでに3万5,000人以上が利用していますが、貸し倒れもなく、国連開発計画や政府機関もこの成功に注目しています。

低収入女性も貸付対象に

この1年は、共同銀行の規模拡大と統合に力を注いだ結果、一般の金融サービスの利用が難しい低収入家庭の女性への貸付が可能に。利用者は農業用具や畜産の飼料を購入したり、商取引に投資したりします。増えた収入は、教育や家族の健康、住居の改善などに使われています。共同銀行に関わる若者たちは、親世代と比べ教育水準も上がっているため、組織内で会計係や秘書、地元政府や政府各部門との中継役として働いています。

また、家計管理トレーニングも実施。貯蓄計画や予算管理、小規模企業の起業方法などを地元新聞に掲載し、家庭での経済意識を高めています。

参加者の声

3人の子どもの母（35歳）
フアナさん

「借りたお金で収入を増やし、子どもの制服や学用品を買いました。コミュニティに共同銀行ができる前は、それぞれが日々ただ働いていただけでした。今では、母親たちは皆、この活動を通し、子どもたちが教育を受け、能力のある市民に育ってくれることを願っています」

農業・家計の知識を提供　カンボジア　S

活動と成果
❶ 気候変動に対処できるスキル・知識の研修による、収入増
❷ 貯蓄・貸付によって生計の安定をはかり、子どもの教育や健康への投資が増加

気候変動に左右されない生計を目標に

貯蓄で購入した脱穀機を使うチェーアンさん

カンボジアの最貧困層の人々は、不安定な小規模農業で生計を立てており、食糧の安定供給が見込めず、出稼ぎ、児童労働、借金の累積、森林伐採などの問題が広がっています。7～14歳の子どもの約38％が農業に従事、大多数が無給で家族のために働き、未就学、中途退学、慢性的な健康不良に直面しています。

農業、生計の指導で余剰資金をつくる

プランは、家計安定に向けて、「乾燥地における小規模農家のための、気候変動に左右されない暮らし」を目指し、天然資源の管理、市場の利用、気候の変動などについて、人々に学ぶ機会を提供しました。また、貧困家庭1,891世帯に家畜飼育、籐細工などの技術を訓練、半数以上が収入を増やしています。

コミュニティの貯蓄グループも今年度は38設立され、家庭の貯蓄が増えて、グループ貯蓄基金を利用して起業することも可能に。資金的な余裕が、子どもの教育、健康管理、栄養価の高い食事といった生活基盤の整備につながりました。

参加者の声

畜産業・農業を経営（46歳）
チェーアンさん

地雷で片足を失ったチェーアンさんは、家畜飼育や改良農法の訓練を受けました。「以前は貧しさのために村の集まりに参加する勇気もなかったのですが、収入が増えた今、人々から尊重され、助言を求められます。子どもには良い教育を授けて、自分の就きたい職業に就かせてやりたい」

青少年のための労働市場主導型の技能訓練　スーダン　S

活動と成果
❶ 職業訓練のためのカリキュラム開発、研修センターの仕組みづくり
❷ 基本雇用適性技能、販売、建築・電気などの職業訓練の結果、家計の収入が増加

労働者に市場ニーズに即した訓練を

成績優秀者名簿に載り、誇らしげな研修生

スーダンでは、15歳から34歳までの18%が失業者と推定されています。原因は、小学校修了時の技術や能力の低さ・欠如と、卒業生の学歴と労働市場における需要のミスマッチです。そのため、中部ノース・コルドファン、東部リベラタバラをはじめとする活動地域の青少年を対象に、基本雇用適性技能訓練（BEST）などを実施しました。

雇用主を巻き込んだ労働技能開発

プランは、2つの地元団体と協力し、BESTのプログラムを通して青少年の失業問題に取り組みました。まずは市場と雇用主のニーズを把握するため、市場調査をして必要な技術を洗い出し、さらに250人の経営者が、経営者の視点からカリキュラム開発に参加しました。

またBESTの実施過程を監督し、研修センターと雇用主とのつながりを支援するために、州レベルで経営者・雇用主連盟によるBEST諮問委員会を組織。省庁・行政や地元団体が共同で統括しています。これによりプログラムの質を高め、雇用適性技能訓練を持続可能なものにしていきます。

参加者の声

コスティ青少年センター長
アブダラさん

「BESTプログラムの導入により、就業者が労働市場で求められる能力を身につける研修が可能になりました。また、このプログラムを経済的に自立させ、継続的に発展させるための仕組みづくりにも取り組んでいます」

水と衛生

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが安全な飲料水と
基本的な衛生環境を得て、
健康で幸福な生活を送る権利を手に入れる」

衛生環境の改善　マリ　S

活動と成果
❶ 公衆衛生キャンペーンなど、コミュニティ主導での総合的な衛生管理を実施
❷ 屋外排泄をやめて家庭用トイレを設置し、学校での手洗いを奨励

住民の意識を高めて衛生習慣を徹底

石けんで手を洗おうキャンペーンに参加する子どもたち

南西部カイ州、西部クリコロ州、セグー州の活動地域では、飲料水の入手と比較すると、衛生習慣は長い間あまり重要視されてきませんでした。しかし、家庭の不適切な排水やごみ処理は常に衛生問題を引き起こし、下痢、コレラ、皮膚病などの水を媒介とする病気が多く発生しています。

屋外排泄をやめ手洗いを励行

これらの問題を解決するために、プランは「衛生環境の改善」というプロジェクトを実施。「コミュニティ主導型総合衛生管理」と「学校での手洗い」を、住民の自助力を高めるように努めながら推進しました。コミュニティの人々に保健衛生の重要性を伝えて屋外の排泄をやめ、トイレの設置や維持管理に自ら携わってもらおうという取組みです。9カ月間で、プロジェクトを実施するすべての村で、人々は屋外での排泄をやめ、住民組織と子ども委員会により公衆衛生週間が設定されるなど生活習慣に変化が見られました。プロジェクトは今後、他のコミュニティへも拡大する予定です。

参加者の声

女性グループ代表（50歳）
ビントウ さん

「以前は衛生のために村で集団行動をとることはありませんでした。このプロジェクトにより、コミュニティが不衛生だとわかり、トイレの後に手を洗うこと、屋外での排泄を禁止するなどの衛生習慣をまず身につけることにしたのです」

貯水・給水設備支援による衛生環境改善　エルサルバドル　一般

活動と成果
❶ 貯水タンクと家庭への給水設備整備により子どもの労働負担を軽減
❷ 民生委員による自治的な衛生教育で衛生意識が向上

新鮮な水道水と清潔なトイレが皆の喜びに

紙芝居を使ったトイレの使用方法説明

エルサルバドル北部のエル・ボルカン村には約40年前に設置された共同水栓がありますが、老朽化が進み十分な水量を供給できません。また、家庭用トイレの不足や生活用水の排水システムが整備されていないため、水源が汚染され、人々が健康を害する要因となっています。

地域・行政が一体となり改善に

貯水タンクやバイオトイレ、送水管などの建設作業には地域の大人たちが熱心に参加してくれ、プロジェクトを進めました。環境汚染を防ぎ、下水道システムがない地域でも使用できる家庭用バイオトイレの建設は、所得の低い女性世帯主の家庭を優先するなどの配慮もなされました。地域に正しい衛生知識を普及するため、子どもも含めた「衛生委員会」を組織。メンバーに正しいトイレの使い方などのトレーニングを行い、紙芝居などを利用しながら地域の人々に広く伝えてもらいました。給水設備ができたおかげで、子どもたちの水汲み労働の負担が減り、母親たちは家庭までひかれた安全な水で食事を用意できるようになりました。

参加者の声

小学生
ジェシカ さん、
メルセデス さん、アマンダ さん

「水汲みが辛かったので、家に水道がひかれたのがすごくうれしい」（ジェシカさん）。「家の裏庭をトイレにしていたけれど、これからは家のバイオトイレを使えます」（メルセデスさん）。「水道のおかげで、好きなときにたくさん水が飲めます！」（アマンダさん）。

水と衛生の改善プロジェクト　ラオス　S

活動と成果
❶ 自主的な衛生環境改善への支援による意識の啓発と習慣化
❷ 給水・トイレなどの衛生設備の整備による環境の改善と感染症の減少

430のトイレを作って衛生環境を改善

「世界水の日」イベントでゲームに参加する子どもたち

ラオスの農村部では、屋外排泄が多く見られ、場所によっては60%以上が屋外排泄を行っており、15%の学校にしかトイレがありません。その結果、下痢など水を媒介とした感染症の高い発生率や健康不良など、子どもたちへの負の影響も大きく、5歳未満児の高い死亡率の要因ともなっています。

地域・学校主導の活動を支援

北西部ボケオ県の活動地域の住民、約5,700人を対象に、現在、「コミュニティ主導型総合衛生管理」の活動を進めており、計19村が「屋外排泄根絶の村」となりました。これはプロジェクトに参加した村の37%にあたり、目標の80%には及びませんが、ラオス国内における同比率17%に比べると非常に高いといえます。

今年度は新たに430のトイレが設置され、6つの給水設備が改修されました。また52の学校において「学校主導型総合衛生管理」の活動を進め、3月22日の「世界水の日」に、学校を中心としたイベントを開催しました。生徒たちは、日々の水利用と、次世代まで安心して継続できる水利用について学んでいます。

参加者の声

13歳の男の子
カンパ くん

「幽霊が病気をひきおこすと信じている人がたくさんいます。でも本当は、衛生的な行動をしないから病気にかかるのだとわかりました。僕は、世界水の日のイベントで、このことを物語にしてみんなの前で話しました」

緊急支援

Plan's Goal プランの目指すゴール

「子どもたち、若者たちが、災害などからの回復力に富む安全な地域で成長し、緊急事態においては保護され、支援される権利を手に入れる」

「台風ボーファ」被害への緊急・復興支援　フィリピン　緊

活動と成果
❶ 仮設学習センターの設置や学用品の支給による学習意欲の向上
❷ 衛生キットや避難テントの支給により復興の基盤を幅広く提供

学用品支給で教育を継続 親子に希望を

台風被害を受けた沿岸部

2012年12月4日、南部ミンダナオ島を台風ボーファが襲い、暴風雨、洪水、土砂崩れで住民1,100人以上が死亡、620万人以上が被災し、23万世帯以上の家屋が被害に遭いました。家屋が倒壊した世帯は避難所生活を余儀なくされ、飲料水の不足や衛生環境の悪化も深刻です。ボーファの破壊力は過去100年に発生した台風の中でも最大規模で、経済的損失は約1,000億円にも上りました。

復興支援の幅広い活動

プランが支援した被災者7万1,000人（1万4,200世帯）の保護者の多くは、台風で失った学用品を新たに買う余裕がなく、子どもたちを退学させなければならないと考えていました。しかしプランの教材支給によりその心配もなくなり、支給後には登校する子どもが増え、授業にも積極的に参加するようになりました。

このプロジェクトでは、住民の積極的な参加に支えられ、地域ボランティアが被災者から情報を収集することで、効果的に活動できました。現在も支援を継続しており、校舎の建設、女性が安心して授乳できるスペースの設置、瓦礫の撤去作業などへの賃金支払いを行いました。

被災者の声

村議会メンバー
ロラデル・バンタヤン さん

「浄水剤のおかげで清潔な水を飲むことができます。私たちの村を支援してくれた唯一の団体であるプランと支援者の方々に感謝しています」

グアテマラ地震への緊急・復興支援　グアテマラ　補

活動と成果
❶ 地元のNGOなどと連携して、支援物資の配布
❷ クリスマス行事や伝統食の提供を通じて、被災者のストレスを軽減

物資とともに被災者を癒す楽しみを提供

住民に聞き取り調査をする番場職員（左端）

2012年11月7日、中米グアテマラ西部でマグニチュード7．2の地震が発生。死者40人余り、倒壊家屋2,600戸、被災者は340万人に上り、その多くが避難所生活を余儀なくされました。

プランはジャパン・プラットフォームから約1,300万円の活動資金を得て、被害の大きかったケツェルテナンゴ、サン・マルコスの2県で支援活動を実施するため職員2名を派遣しました。

温かなイベントや食事で癒す

活動地の多くは標高約２８００ｍの山岳部にあり、夜間の気温は氷点下まで下がります。避難所で人々は毛布にくるまり身を寄せ合い、少ない食糧を分け合っていました。被災地はプランの活動地ではなかったので、地元のＮＧＯなどと連携して、食糧、毛布、清掃・衛生用品などを配布したり、不自由な避難所で暮らす人々の心のケアを行ったりしました。さらにカトリック教徒にとって大切なクリスマスには集会を開き、タマル（トウモロコシ粉のちまき風）やココアなどの伝統的なメニューを提供して、被災者を元気づけました。

被災者の声

ビラ・エルモサ村
避難所の人々

「心が休まらなかった避難所で、ゲームやダンスをして気が晴れました」。「家財道具を失ったので、支給されたバケツや鏡は重宝します。日本での地震被害はもう大丈夫ですか？　あなたも家に帰って家族と温かいクリスマスを過ごしてください」

穀物銀行の設立・運営を支援　ニジェール　補

活動と成果
❶ 穀物銀行の設立と運営支援による食糧不足への対応
❷ メディアとの連携を通して現状を認識してもらい支援の輪を広げる

食糧不足の解消のために穀物銀行を設立

穀物銀行で食糧を受け取った子ども

ニジェールでは、2010年、2011年の干ばつの影響を受けて穀物収穫量が27％減少し、食糧価格が高騰。人々は食糧不足と栄養不足に直面しています。その上2012年には紛争が激化した隣国マリから4万人以上の難民が流入。食糧事情の悪化に拍車をかけています。

女性が主体となり管理運営

今回の支援で設立された穀物銀行とは、収穫した穀物を適正な価格で売れるまで備蓄する機関で、食糧不足のときは備蓄分から食糧を確保する役割を果たします。活動地域の西部ティラベリ州ティラベリ郡で、農作物の収穫量が50％以上減少した23村が、支援対象に選ばれました。穀物銀行は地域住民によって運営されており、主要メンバーは家庭の食を預かる女性です。彼女たちは、食糧の適切な在庫管理や販売・補充などについて学び、食糧不足に備えるための体制づくりも進めています。しかし、食糧不足が深刻なティラベリでは、いまだ木の葉や家畜用の穀物を食べて飢えをしのいでいる世帯も少なくありません。プランではこのような情報をメディアや関係者と共有することで人々の関心を高め、問題解決をはかろうとしています。

参加者の声

実施地域の女性
アイッサ・アダモウ さん

「村に穀物銀行を設立してくれて、本当に感謝しています。市場の価格よりも安く食糧が手に入るおかげで、子どもたちにも十分食べさせることができます」

日本国内で広がる連携の輪

今年度、同じ目標に向かって協力しあう仲間たちがさらに増えました！
Because I am a Girl キャンペーンやジェンダーの問題を軸に協働することで、活動がより広がりをみせた一年でした。

トキワ松学園高等学校の皆さんも Raise Your Hand

Raise Your Hand

「動く→動かす」、学校、支援者の会などを通じて４万人以上が参加

世界の女の子の教育とエンパワーメントのために、手を上げる姿を通して国際社会に働きかけるアクション、Raise Your Hand。プランが 2013 年 10 月までに世界中で 100 万人の参加を目指していた活動です。日本ではプラン・ジャパンの呼びかけにより、2012 年９月から 2013 年６月末までに４万 3,178 人が参加。これは、73 団体のネットワーク「動く→動かす」によって毎年 10 月に行われる「スタンド・アップ テイク・アクション（SUTA）」への同時参加や、プランの支援者の会のメンバー、そして主旨に賛同する方々がそれぞれの学校や職場などで自主的に周囲に呼びかけをし、その動きが草の根的に広まった結果です。

講演会に合わせて子どもたちと一緒にファンドレイジング活動をした BIAAG サポーター

BIAAG サポーター

ファンドレイジング活動を通じてプランを応援

ファンドレイジングとは、寄付を募る行為のことで、海外ではとても盛んです。プラン・ジャパンでは、今年度初めて Because I am a Girl キャンペーンのために、ファンドレイジング活動をするボランティア「BIAAG サポーター」をインターネットで募集し、23 名の方が実際に活動。おうちバザーの開催、メイクアップアーティストとしての技術を生かす、ピアノ・ソロコンサートに挑戦、そして仕事仲間との懇親会など、ご自身のネットワークや機会を生かして活動してくださいました。BIAAG サポーターの活動による寄付総金額は 49 万 6,352 円となり、途上国の女の子たちを支援する Girl's Project で使わせていただきました。

５度目の活動となる昭和女子大学

今年度、初参加の南山大学

昭和女子大学、南山大学

書き損じはがき・未使用はがきを通じて途上国支援を呼びかけ

家にあるはがきを提供することで途上国を支援できる「書き損じ・未使用はがきキャンペーン」。2012 年 12 月～2013 年２月の期間中、昭和女子大学ボランティア委員会（東京都世田谷区）と南山大学（愛知県名古屋市）の有志の学生が実施しました。はがきを集めるポスターを作って学校内で貼ったり、新聞社のインタビューで途上国に対しての思いを語って読者に呼びかけたりした結果、全国から 11 万 3,738 枚のはがきが集まりました。はがきは学生の手によって仕分けされ、456 万 2,915 円の寄付に生まれ変わりました。この寄付金はカンボジアの「安全な水の供給プロジェクト」とベトナムの「女性ならではの職業訓練プロジェクト」で使わせていただきました。

年代も職業もさまざまな受講者が、グループワークにともに取り組みました

プラン・アカデミー

“ジェンダー平等” に取り組むアクターを育み、協働する

2013 年４月 17 日、プラン・ジャパンは初の試みとして、８回の連続講座「プラン・アカデミー」をスタート。Because I am a Girl キャンペーンやジェンダー平等について理解を深め、自ら行動できるアクターを養成することが目的です。「ジェンダーの問題を解決したい」「Because I am a Girl をもっと社会に浸透させたい」。そんな熱い思いを抱いた 100 名以上の応募者のなかから、選考により 37 名が受講者となりました。

講師として、国連機関 UN WOMEN 日本事務所所長代行のミユキ ケルクホフ氏（当時）ら、プラン内外の専門家の協力を得ました。受講者には、今後、プランのよきパートナーとしてともに活動していくことが期待されています。

阿部政務官（当時）を前に、政府への提言を読み上げる高校生

第５回 アフリカ開発会議（TICAD V）

教育協力 NGO ネットワークと公式サイドイベントを開催

日本政府、アフリカ各国の首脳、国際機関、民間企業、NGO がアフリカの発展のために集った第５回アフリカ開発会議（以下、TICAD V）。開催期間中の 2013 年６月１日、プラン・ジャパンは、途上国への教育支援の必要性を伝える「世界一大きな授業」を主催する教育協力 NGO ネットワークとともに、公式サイドイベントとしてシンポジウム「アフリカの女子教育と教育協力における日本の役割」を開催。女子教育支援を重視するよう訴えました。「世界一大きな授業」に参加した日本の高校生５人が日本政府への提言を阿部俊子外務大臣政務官（当時）に託すシーンもみられ、さまざまな関係者と連携することでプランのメッセージがより多くの方に届けられるという効果を生みました。

毎月、プラン・ジャパン事務局にて会合を開きました

国際ガールズ・デー推進ネットワーク

イベントの共催、連携しての情報発信など

2013 年４月、プラン・ジャパンの呼びかけによって、日本や世界の女の子のために活動するアクターが集まり、「国際ガールズ・デー推進ネットワーク」が結成されました。その目的は、10 月 11 日の「国際ガールズ・デー」（詳細は２ページ）の日本社会での認知度を上げること。個々に活動するより、連携することでより大きなムーブメントにできると考えてのことです。参加しているのは、国連広報センター、白百合女子大学、明治学院大学、英治出版、ジャーナリストなど、約 20 の支援団体や学校、企業、個人。６月にはネットワークの共通ロゴマークの公募を開始し、連携を深めました。

多様化する企業との連携

企業の社会的責任（CSR）の重要性が高まるなか、プラン・ジャパンと企業との連携の形もますます多様化しています。
数多くのご支援の中から、いくつかの企業の取り組みについてご紹介します。

クリスタ長堀

地下街全体で Because I am a Girl キャンペーンを応援

クリスタ長堀は、大阪の心斎橋駅、長堀橋駅と四ツ橋駅が直結する地下街で、今までに社会貢献活動としてさまざまな団体を支援されています。プラン・ジャパンには、2010 年と 2012 年の 12 月を Because I am a Girl キャンペーンの応援期間としてご支援いただいています。2012 年 12 月は、100 店舗以上での募金箱設置やチャリティーバザールの開催を通じて、Girl's Project に寄付いただきました。また、期間中の週末には、地下街の“滝の広場”を行きかう多くの人々に Raise Your Hand に参加いただきました。

関西地域のプラン支援者の会のご協力により、大勢の方にご参加いただきました

株式会社ボディワーク

リラクゼーションスペース・ラフィネ /Raffine をはじめとする 480 店舗における募金活動

ボディワークは、社会貢献活動の一環として、長年にわたり社会的なサポートが必要な人々のために募金活動を推進してきました。ボディケア、リフレクソロジー、ハンドリフレクソロジーなどのサービスを提供している同社の主力ブランドであるラフィネ /Raffine の店舗スタッフ、来店者ともに女性が大半を占めていることから、プラン・ジャパンの Because I am a Girl キャンペーンに深く賛同し、2013 年 4 月よりラフィネ / Raffine をはじめとする全国 480 店舗に募金箱やリーフレットを設置することで、本キャンペーンの対象プロジェクトへの募金活動に協力くださっています。

店舗に設置された募金箱

三菱商事株式会社

MC FOREST（エムシー フォレスト）で「Because I am a Girl セミナー」を開催

三菱商事の MC FOREST は、同社の CSR 活動などさまざまな活動を紹介するだけでなく、環境や社会貢献活動に取り組む NGO や NPO と協働して、セミナーやイベントなども積極的に開催する施設です。プラン・ジャパンは MC FOREST のスペースを提供いただき、Because I am a Girl セミナーと題し、2013 年 5 月 21 日と 6 月 18 日に、途上国の女の子たちが直面するさまざまな問題と、その解決に向けたプランの取り組みを紹介しました。参加者の皆さまには、セミナーの最後に Raise Your Hand にもご参加いただきました。

プランの職員の説明を熱心に聞く参加者の皆さま

セブン&アイ　アベスコ基金

自動販売機の収益による支援

株式会社セブン＆アイ・ホールディングスはミレニアム開発目標（MDGs）に賛同し、2000 年に飲料メーカー等と共同で「セブン＆アイ　アベスコ基金」を設立。同基金は、イトーヨーカドー店舗内自動販売機の収益の一部で国際人道支援活動を支援しており、プラン・ジャパンには 2007 年からご寄付いただいています。今年度は、タイの乳幼児教育施設建設に加え、MDGs の 1 つ「ジェンダー平等の推進と女性の地位向上」に寄与する Because I am a Girl キャンペーンに共感し、バングラデシュの女性の能力強化プロジェクトも支援されています。

女の子が職業訓練を受けられる機会はまだ限られています

三菱重工業株式会社

インドにおける科学実験室支援

三菱重工業では、「科学技術で地球社会に貢献できる人材の育成」を目指し、2008 年より日本国内の学校に出向いて「理科授業」を開催するなど、次世代支援活動に取り組まれています。2013 年 3 月からは、プラン・ジャパンを通じてインドにおける科学実験室支援プロジェクトに支援をいただきました。プロジェクト開始前の 2012 年 11 月には同社のご担当者が現地に赴き、支援の必要性と期待される効果を調査されました。本プロジェクトでは、インド北部のウッタラーカンド州の公立中等・高等学校 8 校に、理科系の授業を行うための設備や教材を整備し、子どもたちの知的好奇心を刺激する授業を行うことにより、子どもたちが楽しみながら授業に参加し、科学に対して高い関心を持つようになることを目的としています。

インドの子どもたちとの交流の様子

SCSK 株式会社

カンボジアの子どもたちの IT 知識習得支援

SCSK の社員有志による社会貢献活動クラブ「Earth One」では、クラブ会員が拠出した会費を活動資金として、チャリティイベント開催、ボランティア活動、NGO 等への寄付などさまざまな活動を実施されています。クラブでは、同社の IT 事業との親和性を鑑み、途上国の子どもたちへコンピュータ教室を贈ることを目標に、3 年間会費の一部を積み立てられました。その貴重な寄付金をもとに、同社のマッチングギフト制度を活用し、2013 年 3 月からプラン・ジャパンを通じてカンボジアのコンピュータ教室建設プロジェクトを支援いただいています。プロジェクトでは、カンボジア東南部、カンポンチャム地域にある前期中学校にコンピュータ教室を建設することにより、農村地域の子どもたちがパソコンに触れ、IT に関する基本的な知識と技能を習得することで、都市部と農村部の教育格差の縮小をはかります。

コンピュータ教室の壁面の漆喰塗り作業の様子

株式会社 LiFree

結婚式用ビデオの売上による支援

結婚式用の動画をはじめとする各種映像制作を行う LiFree。同社では、結婚されたお二人の幸せが世界の子どもたちの笑顔につながるようにと、「しあわせを世界に」と銘打ち、結婚式用の動画制作費の 10％を、毎月プラン・ジャパンに寄付くださっています。ご寄付は、カンボジアでの安全な水の供給など、プラン一般プロジェクトのさまざまなプロジェクトに役立てられています。

設置された手押しポンプ付きの井戸（カンボジア）

株式会社アジャスト

オンライン英会話スカイトークによる支援

アジャストが運営するスカイプを使ったオンライン英会話レッスン「スカイトーク」では、2010 年から“1 レッスン for 1 スマイル”という寄付システムで支援を続けています。これは、スカイトークで 1 レッスンを受けると自動的に 3 円がプラン・スポンサーシップへの寄付になるというシステムです。所属されている講師の多くがフィリピン在住者ということで、現在 17 人のフィリピンのチャイルドと交流いただいています。

プラン・スポンサーシップの支援が、多くの子どもたちの笑顔につながります

住友化学株式会社

第 19 回読売国際協力賞の賞金による支援

「読売国際協力賞」は、国際協力分野で活躍し、国際社会への貢献と協力の重要性を示した個人、団体、企業に贈られます。住友化学は、独自に開発した防虫蚊帳「オリセット ® ネット」の生産・販売を通じたマラリア防圧への取り組みが評価され、2012 年 10 月に同賞を受賞されました。同社は 2005 年より、「オリセット ® ネット」の売上の一部を活用し、アフリカ諸国で教育支援に取り組まれており、プラン・ジャパンにも 2010 年以降、継続的にご支援いただいています。今年度は継続的な支援に加え、このたびの受賞にともなう賞金を、マリとガーナの小学校への教育支援のために全額寄付くださいました。このご支援により、両国では図書館の建設、図書館備品や図書、スポーツ用具の支給が実施されています。

建設中の図書館（マリ）

活動国の基本統計一覧 2013

		活動開始年	チャイルド数	日本のスポンサーを持つチャイルド数	プロジェクト数	職員数	5歳未満児死亡率（1,000人あたり）	低出生体重児出生率（%）	平均余命（歳）	小学校に入学した生徒が最終学年に残る率（%）	成人の総識字率（%）	改善された水源を利用する人の比率（%）	1人あたりのGNI（米ドル）	1日1.25米ドル未満で暮らす人の比率（%）
アジア	インド	1979	66,059	2,030	495	170	61	28	65	-	63	92	1,410	33
	インドネシア	1969	47,572	1,099	38	370	32	9	69	-	93	82	2,940	18
	カンボジア	2002	22,970	1,060	70	180	43	11	63	-	74	64	830	23
	スリランカ	1981	20,103	1,030	177	154	12	17	75	-	91	91	2,580	7
	タイ	1985	10,500	686	40	56	12	7	74	-	94	96	4,420	0
	中国	1995	30,368	1,187	67	109	15	3	73	99	94	91	4,930	13
	ネパール	1978	39,724	2,042	196	251	48	18	69	-	60	89	540	25
	パキスタン	1997	23,317	1,175	141	232	72	32	65	62	55	92	1,120	21
	バングラデシュ	1994	32,161	2,160	42	267	46	22	69	66	57	81	770	43
	東ティモール	2001	8,523	38	12	85	54	12	62	67	58	69	2730	37
	フィリピン	1961	40,704	1,665	379	281	25	21	69	76	95	92	2,210	18
	ベトナム	1993（再開）	36,886	2,525	230	250	22	5	75	-	93	95	1,260	17
	ミャンマー	2008	0	0	8	12	62	9	65	75	92	83	1,025以下	-
	ラオス	2006	7,351	254	169	91	42	11	67	-	73	67	1,130	34
中南米	エクアドル	1963	49,813	1,337	159	213	23	8	76	-	92	94	4,140	5
	エルサルバドル	1976	37,051	982	251	138	15	9	72	86	84	88	3,480	9
	グアテマラ	1978	38,722	931	83	228	30	11	71	-	75	92	2,870	14
	コロンビア	1962	25,174	901	37	231	18	6	74	85	93	92	6,110	8
	ドミニカ共和国	1987	25,848	597	77	149	25	11	73	-	90	86	5,240	2
	ニカラグア	1994	28,200	685	79	198	26	9	74	-	78	85	1,170	12
	ハイチ	1973	35,447	210	140	170	70	25	62	-	49	69	700	62
	パラグアイ	1994	23,061	620	107	83	22	6	72	78	94	86	2,970	7
	ブラジル	1997	15,412	226	40	86	16	8	73	-	90	98	10,720	6
	ペルー	1994	26,154	733	86	138	18	8	74	90	90	85	5,500	5
	ボリビア	1969	45,069	1,192	269	212	51	6	67	-	91	88	2,040	16
	ホンジュラス	1977	35,994	1,030	51	197	21	10	73	-	85	87	1,970	18
アフリカ	ウガンダ	1992	38,653	1,135	205	263	90	14	54	32	73	72	510	38
	エジプト	1981	35,823	1,427	120	208	21	13	73	-	72	99	2,600	2
	エチオピア	1995	28,284	722	36	259	77	20	59	47	39	44	400	39
	ガーナ	1992	29,170	736	86	147	78	13	64	72	67	86	1,410	29
	カメルーン	1996	27,040	485	63	136	127	11	52	66	71	77	1,210	10
	ギニア	1989	31,548	826	217	124	126	12	54	66	41	74	440	43
	ギニアビサウ	1995	20,054	247	135	95	161	11	48	-	54	64	600	49
	ケニア	1982	68,164	2,022	147	307	73	8	57	-	87	59	820	43
	ザンビア	1996	24,082	425	50	110	83	11	49	53	71	61	1,160	69
	シエラレオネ	1976	12,002	138	30	157	185	11	48	-	42	55	340	53
	ジンバブエ	1986	42,878	1,297	77	282	67	11	51	-	-	80	640	-
	スーダン	1977	32,052	455	62	188	86	-	-	-	-	-	-	-
	セネガル	1982	35,583	1,460	150	138	65	19	59	60	50	72	1,070	34
	タンザニア	1991	31,001	837	57	169	68	8	58	81	73	53	540	68
	トーゴ	1988	25,810	908	137	137	110	11	57	59	57	61	560	39
	ニジェール	1998	21,177	268	102	146	125	27	55	69	29	49	360	44
	ブルキナファソ	1976	42,992	1,528	63	198	146	16	55	64	29	79	570	45
	ベナン	1995	24,649	322	39	134	106	15	56	-	42	75	780	47
	マラウィ	1994	25,611	665	99	146	83	13	54	53	75	83	340	74
	マリ	1974	28,865	925	122	173	176	19	51	75	31	64	610	50
	南スーダン	2006（独立前から該当地域にて）	6,500	29	16	101	121	-	-	-	-	-	4,305以下	-
	モザンビーク	2007	9,700	51	13	62	103	16	50	27	56	47	470	60
	リベリア	2006（再開）	5,250	0	19	72	78	14	57	-	61	73	240	84
	ルワンダ	2007	12,004	58	32	76	54	7	55	-	71	65	570	63
	日本	1983	-	-	-	59	3	8	83	100	-	100	45,180	-

※プランに関するデータは2013年6月30日現在のものです。それ以外のデータは、「ユニセフ 世界子供白書 2013」からの出典となります

2013年度 公益財団法人プラン・ジャパン 決算報告

2012年7月1日～2013年6月30日

この決算報告は、あらた監査法人（PricewaterhouseCoopers Aarata）および本財団監事による監査を受け、理事会並びに評議員会の承認を経て内閣府へ提出した財務諸表等※の抜粋です。

皆さまのご支援により、収入30億2,487万3,662円を計上し、プログラム実施費/協力事業費/日本NGO連携無償資金協力協力事業費/草の根・人間の安全保障無償資金協力協力事業費として、海外における開発支援プロジェクトに21億6,077万5,379円（当期収入比：71.4%）、国内事業費（広報費・事業関連費）に7億4,834万539円（同：24.7%）、管理費に1億222万1,144円（同：3.4%）に支出しました。

※財務諸表等はウェブサイト www.plan-japan.org でご覧いただけます

貸借対照表

2013年6月30日現在（単位：円）

科目	金額
Ⅰ 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	57,213,270
流動資産合計	**57,213,270**
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
普通預金	200,000,000
基本財産合計	**200,000,000**
(2) 特定資産	
メモリアル・ファンド	141,235,160
スポンサーシップ寄付金	701,804,439
マンスリー・サポーター寄付金	47,367,000
プロジェクト特定寄付金	17,948,510
プロジェクト無特定寄付金	62,089,047
遺贈信託財産	21,696,236
前払費用	8,476,714
什器備品等	26,144,298
ソフトウェア仮勘定	181,650,000
保証金	32,340,000
電話加入権	882,792
特定資産合計	**1,241,634,196**
(3) その他固定資産	
什器備品等	1,649,375
その他の固定資産合計	**1,649,375**
固定資産合計	**1,443,283,571**
資産合計	**1,500,496,841**
Ⅱ 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	42,823,464
未払費用	7,880,683
預り金	6,303,014
未払消費税	206,109
短期リース債務	682,500
流動負債合計	**57,895,770**
2. 固定負債	
長期リース債務	966,875
固定負債合計	**966,875**
負債合計	**58,862,645**
Ⅲ 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
寄付金	1,441,634,196
指定正味財産合計	1,441,634,196
（うち基本財産への充当額）	(200,000,000)
（うち特定資産への充当額）	(1,241,634,196)
2. 一般正味財産	0
（うち基本財産への充当額）	(0)
（うち特定資産への充当額）	(0)
正味財産合計（注4）	**1,441,634,196**
負債及び正味財産合計	**1,500,496,841**

正味財産増減計算書

2012年7月1日から2013年6月30日まで（単位：円）

科目	金額
Ⅰ 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①指定正味財産からの振替額（注1）	**2,903,568,404**
②事業収益（注2）	**106,996,875**
③雑収益（注2）	**771,783**
経常収益計	**3,011,337,062**
(2) 経常費用 （注3）	
①事業費	**2,909,115,918**
プログラム実施費	1,993,813,179
協力事業費	100,265,768
日本NGO連携無償資金協力協力事業費	57,523,006
草の根・人間の安全保障無償資金協力協力事業費	9,173,426
広報費	444,873,186
事業関連費	303,467,353
②管理費	**102,221,144**
経常費用計	**3,011,337,062**
当期経常増減額	**0**
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
①指定正味財産からの振替額（注1）	13,439,919
経常外収益計	**13,439,919**
(2) 経常外費用	
①固定資産売却損	**6,418,381**
②固定資産評価損	**7,021,538**
経常外費用計	**13,439,919**
当期経常外増減額	**0**
当期一般正味財産増減額（注4）	**0**
一般正味財産期首残高（注4）	**0**
一般正味財産期末残高（注4）	**0**
Ⅱ 指定正味財産増減の部	
①基本財産運用益（注2）	2,446,407
②受取寄付金（注2）	2,849,633,756
③特定資産運用益（注2）	2,443,189
④受取補助金等（注2）	62,581,652
⑤特定資産評価益	△1,190,000
⑥一般正味財産への振替額（注1）	△2,917,008,323
当期指定正味財産増減額（注4）	**△1,093,319**
指定正味財産期首残高（注4）	**1,442,727,515**
指定正味財産期末残高（注4）	**1,441,634,196**
正味財産期末残高	**1,441,634,196**

（注1）指定・一般正味財産間の振替科目

（注2）収入内訳

（この表は監査を受けていません）　（単位：千円）

科目	金額
Ⅰ 一般正味財産増減の部	
①事業収益	**106,997**
②雑収益	**772**
Ⅱ 指定正味財産増減の部	
③基本財産運用益	**2,446**
④受取寄付金	**2,849,634**
スポンサーシップ寄付金	2,102,342
プロジェクト特定寄付金	280,344
マンスリー・サポーター寄付金	381,417
プロジェクト無特定寄付金	85,531
⑤特定資産運用益	**2,443**
メモリアル・ファンド利息収益	1,164
受取利息	1,279
⑥受取補助金等	**62,582**
合計	**3,024,874**

（注３）経常費用内訳 （この表は監査を受けていません）

（単位：千円）

	活動国プログラム費	広告・広報費	人件費	事務費	施設費	諸雑費	合計
①事業費	**2,160,775**	**253,307**	**227,679**	**184,650**	**73,668**	**9,038**	**2,909,116**
プログラム実施費	1,993,813						1,993,813
協力事業費	100,266						100,266
日本 NGO 連携無償資金協力協力事業費	57,523						57,523
草の根・人間の安全保障無償資金協力協力事業費	9,173						9,173
広報費	0	253,295	84,767	84,920	18,610	3,282	444,874
事業関連費	0	12	142,912	99,730	55,058	5,756	303,468
②管理費	0	0	78,634	10,097	10,898	2,591	102,221
合計	**2,160,775**	**253,307**	**306,313**	**194,747**	**84,566**	**11,629**	**3,011,337**

（注４）正味財産増減（収入別） （この表は監査を受けていません）

（単位：千円）

	スポンサーシップ寄付金	マンスリー・サポーター寄付金	プロジェクト特定寄付金	プロジェクト無特定寄付金	受取メモリアル・ファンド、メモリアル・ファンド利息収益	事業収益、受取補助金等	その他（基本財産受取利息、受取利息、雑収益）	計
当期収入 (a)	**2,102,342**	**381,417**	**280,344**	**85,531**	**1,164**	**169,579**	**4,497**	**3,024,874**
当期事業費 (b)	**1,954,349**	**368,617**	**265,652**	**87,607**	**58,815**	**169,579**	**4,497**	**2,909,116**
公益目的事業１	1,936,504	368,617	265,652	87,607	58,815	169,579	4,497	2,891,271
プラン・スポンサーシップ	1,936,504	0	0	0	0	0	772	1,937,276
プラン・マンスリー・サポーター	0	359,814	0	0	0	0	0	359,814
プラン・特別プロジェクト	0	0	194,471	9,825	4,857	0	0	209,153
プラン・一般プロジェクト	0	8,803	56,748	48,737	20,158	0	0	134,446
緊急・復興支援	0	0	14,433	0	10,124	0	0	24,557
公的資金等	0	0	0	29,045	23,676	169,579	3,725	226,025
公益目的事業２	17,845	0	0	0	0	0	0	17,845
当期管理費 (c)	**69,047**	**13,706**	**9,897**	**7,466**	**2,106**	**0**	**0**	**102,221**
固定資産売却損（益）・評価損（益）、特定資産評価損（益）（d）	**△ 544**	**0**	**0**	**13,440**	**1,734**	**0**	**0**	**14,630**
正味財産増減 (a-b-c-d)	**79,490**	**△ 906**	**4,795**	**△ 22,982**	**△ 61,491**	**0**	**0**	**△ 1,094**
前期末残高	**871,808**	**48,273**	**13,154**	**106,767**	**202,726**	**0**	**200,000**	**1,442,728**
当期末残高	**951,298**	**47,367**	**17,949**	**83,785**	**141,235**	**0**	**200,000**	**1,441,634**

正味財産増減前年度・予算対比（この表は監査を受けていません）（単位：千円）

			2012 年度	2013 年度 予算（注2）	2013 年度 実績
増加額	収入（注 1）	スポンサーシップ寄付金	2,198,234	2,058,000	2,102,341
		その他の寄付金	868,916	886,000	747,292
		受取補助金・事業収益	38,051	170,000	169,579
		受取利息・雑収益等	6,407	5,000	5,661
	計		3,111,608	3,119,000	3,024,873
減少額	事業費	活動国プログラム費	2,182,163	2,320,000	2,160,775
		東日本大震災	139,515	0	0
		広報費・事業関連費	613,407	757,160	748,341
	管理費		98,838	96,035	102,221
	計		3,033,923	3,173,195	3,011,337
評価損益等			△ 1,173	0	△ 14,629
当期正味財産増減			76,512	△ 54,195	△ 1,093
期首正味財産残高			1,366,215	1,442,727	1,442,727
期末正味財産残高			1,442,727	1,388,532	1,441,634

監査報告書

公益財団法人プラン・ジャパン
理事長　川上　隆朗　殿

監　査　報　告　書

私ども監事は、公益財団法人プラン・ジャパンの 2012 年 7 月 1 日から 2013 年 6 月 30 日までの第 3 期事業年度の業務について監査を実施し、協議のうえ、以下の通り報告いたします。

1.　監査の方法及びその内容
各監事は、当期の監査計画に従い、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事、業務執行部門等からその業務の執行状況を聴取し、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。さらに、会計監査人から報告及び説明を受け、貸借対照表及び正味財産増減計算書及びその附属明細書、キャッシュフロー計算書、財務諸表に対する注記、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下「財務諸表等」という）並びに附属明細につき検討を加えました。また、事業報告書につき所要の調査を実施しました。

2.　監査の結果
(1) あらた監査法人の行った財務諸表等および財産目録の監査方法及び結果は、相当であると認めます。
(2) 財務諸表等及び財産目録は、記載すべき事項を正しく表示しており、指摘すべき事項は認められません。
(3) 事業報告書は公益財団法人プラン・ジャパンの業務運営の状況を適正に表示しているものと認めます。
(4) 役員の職務遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する事実は認められません。

2013 年 8 月 23 日

公益財団法人プラン・ジャパン
監事　和田義博
監事　北村佳子

プラン・ジャパン事業費一覧 （この表は監査を受けておりません）

（単位：円）

			合計	（内プラン・スポンサーシップ）
活動国プログラム費（プログラム実施費，協力事業費，日本 NGO 連携無償資金協力協力事業費，草の根・人間の安全保障無償資金協力協力事業費）	アジア	バングラデシュ	85,980,304	49,704,685
		カンボジア	42,921,538	23,327,445
		中国	32,337,147	32,337,147
		インド	83,101,807	47,655,968
		インドネシア	35,674,744	23,117,917
		ラオス	4,120,716	4,120,716
		ミャンマー	20,306,520	0
		ネパール	77,816,108	46,701,452
		パキスタン	42,705,928	29,729,688
		フィリピン	80,414,148	38,622,985
		スリランカ	56,024,291	23,071,355
		タイ	25,896,975	18,322,055
		東ティモール	512,179	512,179
		ベトナム	176,381,323	64,674,293
		アジア地域統括事務所	39,751,610	29,386,730
	中南米	ボリビア	27,261,914	27,261,914
		ブラジル	5,331,322	5,331,322
		コロンビア	22,303,086	22,303,086
		ドミニカ共和国	14,108,215	14,108,215
		エクアドル	38,357,100	31,173,102
		エルサルバドル	33,794,662	23,001,513
		グアテマラ	85,419,981	21,767,626
		ハイチ	5,494,288	5,494,288
		ホンジュラス	35,020,246	25,236,477
		ニカラグア	15,248,978	15,248,978
		パラグアイ	16,622,551	16,622,551
		ペルー	17,716,752	17,716,752
		中南米地域統括事務所	16,471,413	16,471,413
	東南アフリカ	エジプト	39,908,502	33,268,382
		エチオピア	27,094,288	18,717,830
		ケニア	47,958,619	47,958,619
		マラウィ	16,762,236	16,762,236
		モザンビーク	1,491,041	1,070,921
		ルワンダ	1,164,044	1,164,044
		南スーダン	36,035,494	372,494
		スーダン	11,786,879	9,987,499
		タンザニア	35,136,821	19,602,504
		ウガンダ	28,076,745	28,076,745
		ザンビア	20,030,992	9,638,286
		ジンバブエ	30,684,204	30,684,204
		東南アフリカ統括事務所	15,889,228	15,889,228
	西アフリカ	ベナン	96,228,442	7,566,287
		ブルキナファソ	46,328,083	35,968,964
		カメルーン	59,232,057	12,036,217
		ガーナ	60,054,933	17,367,539
		ギニア	21,371,851	21,371,851
		ギニアビサウ	5,773,659	5,773,659
		マリ	32,750,932	23,071,355
		ニジェール	37,854,032	5,657,255
		セネガル	35,270,538	35,270,538
		シエラレオネ	3,026,515	3,026,515
		トーゴ	68,440,174	21,255,446
		西アフリカ地域統括事務所	13,773,273	13,773,273
	緊急復興支援基金積立額		8,038,612	8,038,612
	プラン・インターナショナル国際本部プログラム管理費		113,245,709	113,245,709
	プラン・インターナショナル国際本部管理費		61,052,760	61,052,760
	為替差損（益）		49,218,870	49,218,870
	小計		2,160,775,379	1,339,909,694
その他国内事業費（広報費・事業関連費）			748,340,539	614,439,103
事業費計			**2,909,115,918**	**1,954,348,797**
管理費			**102,221,144**	**69,046,812**
合計			**3,011,337,062**	**2,023,395,609**

2013年度 プラン国際連結決算報告

2012年7月1日～2013年6月30日

これらの決算報告は、国際監査法人プライスウォータハウスクーパーズの監査を受け、各国のプラン理事からなるプランメンバーズ総会により承認された国際連結決算の抜粋です。

世界の皆さまからのご支援により、収入は6億7,877万ユーロとなり、途上国の地域開発・緊急復興支援プロジェクトに5億3,484万ユーロを充てることができました。

※1ユーロは約130円です（2013年6月30日現在）

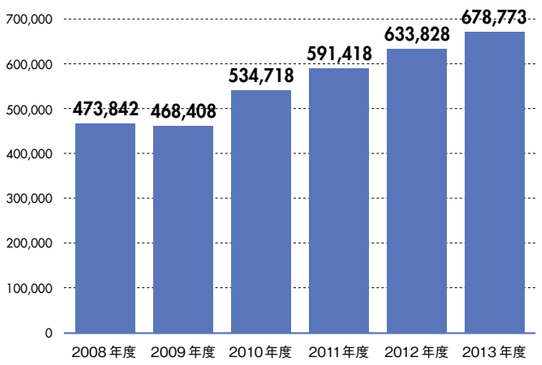
連結損益計算書及び連結包括損益計算書

2012年7月1日～2013年6月30日
（単位：1,000€）

科目	当年度	前年度
Ⅰ　収益		
スポンサーシップ寄付金	368,613	362,996
助成金収益・現物寄付	219,901	180,307
その他寄付金	83,071	84,553
利息収益	1,794	2,975
事業収益	5,394	2,997
収益合計	**678,773**	**633,828**
Ⅱ　費用		
プログラム費	534,846	487,545
広報費	102,481	90,927
管理費	54,841	52,607
収益事業費	5,004	2,934
為替損益計算前支出合計	**697,172**	**634,013**
為替損益	6,545	(10,867)
費用合計	**703,717**	**623,146**
Ⅲ　包括損益		
当期損益差額	(24,944)	10,682
有価証券評価損益	497	(244)
外貨換算調整	(7,812)	11,313
当期包括損益差額	**(32,259)**	**21,751**

収入額の推移

（単位：1,000€）



連結貸借対照表

2013年6月30日現在（単位：1,000€）

科目	2013/6/30	2012/6/30
Ⅰ　資産の部		
1 流動資産		
現金及び現金同等物	247,550	280,265
有価証券	17,444	20,521
未収金	29,507	31,541
前払費用	10,011	7,001
棚卸資産	2,809	2,646
流動資産合計	**307,321**	**341,974**
2 固定資産		
投資有価証券	8,123	4,564
有形・無形固定資産等	43,399	34,466
固定資産合計	**51,522**	**39,030**
資産合計	**358,843**	**381,004**
Ⅱ　負債の部		
1 流動負債		
当座借越	345	440
未払金・未払費用	52,395	45,269
退職給付引当金等	488	464
流動負債合計	**53,228**	**46,173**
2 固定負債		
退職給付引当金等	21,750	20,777
その他固定負債	3,517	1,447
固定負債合計	**25,267**	**22,224**
負債合計	**78,495**	**68,397**
Ⅲ　正味財産の部		
1 一般正味財産		
固定資産	42,467	33,259
売却可能有価証券評価（損）益	1,531	1,071
次年度実施プログラム充当資金	78,738	103,302
未収プロジェクト資金準備金	22,035	31,628
一般正味財産合計	**144,771**	**169,260**
2 一時的指定正味財産		
前受スポンサーシップ寄付金	13,741	16,359
指定寄付金	77,822	98,432
その他の指定正味財産	28,278	13,791
一時的指定正味財産合計	**119,841**	**128,582**
3 永久的指定正味財産		
永久的指定寄付金	13,537	12,132
基本金	2,199	2,633
永久的指定正味財産合計	**15,736**	**14,765**
正味財産合計	**280,348**	**312,607**
負債及び正味財産合計	**358,843**	**381,004**

プログラム費国別内訳（この表は監査を受けておりません）

（単位：1.000€）

		保健	性と生殖に関する健康と権利	教育	水と衛生	家計の安定	子どもの保護	子どもの参加	緊急支援	プログラム共通費	スポンサーシップコミュニケーション	合計
アジア	バングラデシュ	2974	118	997	178	754	1322	1689	780	2923	194	11928
	カンボジア	3091	157	1600	1371	902	179	949	609	2151	233	11242
	中国	957		516	125	39	195	405	469	1738	701	5145
	インド	3046	537	2444	2494	1060	182	1596	436	6	652	12453
	インドネシア	1141		989	997	891	414	186	739	3074	844	9276
	ラオス	231		822	264	40	2	187	64	988	126	2722
	ミャンマー	2	0	8	84	0	2	2	177	445	0	718
	ネパール	492	7	900	803	1489	154	849	231	2122	289	7336
	パキスタン	1172	371	1722	2308	776	172	419	3734	2148	400	13223
	フィリピン	581		1064	764	1165	318	556	2994	2955	313	10711
	スリランカ	525		230	202	134	213	232	33	1760	185	3515
	タイ	610	101	302		339	161	64	240	1218	167	3202
	東ティモール	0	36	343	437	180	56	172	33	814	84	2155
	ベトナム	1336		1552	511	832	454	2007	678	2515	713	10598
	地域統括事務所（タイ）	41		82	27	38	179	376	403	2766	113	4027
	アジア小計	**16200**	**1328**	**13571**	**10565**	**8639**	**4003**	**9689**	**11620**	**27622**	**5015**	**108253**
中南米	ボリビア	2664	591	1403	1198	734	344	1247	126	2798	755	11861
	ブラジル	153	84	223	80	178	1	609	6	2070	317	3722
	コロンビア	2664	101	2856	706	985	8293	3134	777	61	472	20047
	ドミニカ共和国	280	11	168		153	347	551	871	1944	180	4505
	エクアドル	183	143	982	155	105	72	1412	525	3612	660	7848
	エルサルバドル	3181	353	501	265	664	191	1403	446	2833	437	10273
	グアテマラ	1213	697	1347	158	246	421	973	572	2566	347	8540
	ハイチ	1338	1	2127	870	350	37	488	225	4297	584	10316
	ホンジュラス	268	80	587	99	141	565	837	244	2591	461	5873
	ニカラグア	354	180	246	91	333	631	714	101	2387	316	5353
	パラグアイ	199	36	463	354	106	50	696	109	1732	274	4018
	ペルー	436	15	473	141	457	131	493	156	2623	358	5283
	地域統括事務所（パナマ）	101	0	126		2	440	407	357	3088	332	4853
	中南米小計	**13032**	**2292**	**11503**	**4118**	**4454**	**11521**	**12962**	**4515**	**32601**	**5493**	**102492**
東南アフリカ	アルバニア	6		273	33			15		38		366
	エジプト	328	60	302	220	267	356	1084	4	2445	865	5930
	エチオピア	1149		1835	1524	635	622	457	6180	2375	473	15249
	ケニア	1428	44	1142	2567	1041	547	1961	368	5224	1268	15591
	マラウィ	1221	12	483	1126	61	592	1319	139	858	261	6072
	モザンビーク	231	5	454	87	169	66	119	330	1433	234	3129
	ルワンダ	706		1862	306	704	99	558		1516	169	5919
	南スーダン	62		265	139	-4921	45	211	3347	8356	85	7589
	スーダン	747	24	1045	328	318	152	114	2883	1626	534	7772
	タンザニア	3235	62	177	480	706	107	628	155	2903	413	8868
	ウガンダ	3803	1087	1136	1418	932	359	959	116	3678	878	14367
	ザンビア	759	160	616	175	400	278	1798	0	2988	465	7640
	ジンバブエ	4054	39	2083	101	1471	626	588	6312	2037	1032	18343
	地域統括事務所（ケニア）	5		37	6	0	112	338	542	4864	296	6201
	東南アフリカ小計	**17735**	**1494**	**11709**	**8511**	**1783**	**3962**	**10150**	**20377**	**40341**	**6975**	**123036**
西アフリカ	ベナン	2415	1329	411	1239	870	169	260	117	2456	425	9691
	ブルキナファソ	1496	217	4474	2766	190	515	284	2226	3085	691	15943
	カメルーン	949	44	1621	439	60	49	286	583	2150	276	6456
	ガーナ	1334	-1	4033	664	1199	129	677	46	2047	269	10397
	ギニア	5416	24	1330	685	170	90	593	24	2625	716	11674
	ギニアビサウ	379	16	744	580	159	183	190	29	1601	225	4106
	リベリア	6526	34	778	297	164	5	566	347	1967	159	10841
	マリ	1225	576	1131	478	269	356	1695	1627	1964	318	9641
	ニジェール	794	37	856	747	574	115	193	5153	2483	341	11293
	セネガル	4711		829	248	606	24	300	92	2328	661	9800
	シエラレオネ	8610	0	2069	512	1732	351	344	-112	2874	228	16607
	トーゴ	1626		702	599	765	486	814	7	1747	538	7285
	地域統括事務所（セネガル）	110		108	304	134	32	827	277	2691	274	4757
	西アフリカ小計	**35590**	**2275**	**19086**	**9559**	**6890**	**2506**	**7028**	**10416**	**30018**	**5122**	**128492**
その他調整		22798	2750	19995	9665	15638	9159	16913	16461	-130581	13220	-3982
Interact			3315									3315
CEPDA		502						75				577
活動国合計		**105857**	**13455**	**75864**	**42418**	**37406**	**31152**	**56817**	**63390**	**0**	**35825**	**462183**
国際本部 / 支援国		7774	2748	11691	2999	4193	6827	12070	6693	0	17668	72663
合計		**113631**	**16203**	**87555**	**45417**	**41599**	**37979**	**68887**	**70083**	**0**	**53493**	**534846**

2013年度
プラン・ジャパン
年次報告書

ANNUAL REPORT 2013
2012/7～2013/6

VISION プランの目標

人々の権利と尊厳が守られ、すべての子どもたちが能力を最大限に
発揮できる世界を実現する

MISSION プランの使命

1. 子ども、家族、地域の人々が、人間としての基本的な生活条件を備え、
   社会活動に参加し、自立を達成できるよう支援する
2. 異なる国籍や文化を持つ人々の相互理解を深め、皆が協力できる関係を築く
3. 世界中の子どもたちの権利と利益の確立を図る

STRATEGIC DIRECTION プランの活動方針

1. 子どもたちとともに途上国の地域開発を進める
2. 貧困に苦しむ子どもたちを長期にわたり支援する
3. できるかぎり多くの子どもを支援する
4. 「子どもの権利」を守るため、世界中の人々をつなげる
5. 問題解決に向けて、政府や関連機関と協力・連携する
6. 子どもたちの声を発信する

公益財団法人プラン・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22
サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100 FAX 03-5481-6200
（業務時間 / 土・日・祝日を除く 9:00～17:30）
service@plan-japan.org
www.plan-japan.org

この冊子は、1冊あたり約36円で製作されています

Accountability
Self-Check 2008

これは、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2008」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について当団体が適切に自己審査したことを示しています。

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン